

## 7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

- 
- (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況
  - (2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み
  - (3) 『花のビュー坊プレート』『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況
  - (4) 治安が改善していることの認知
  - (5) 居住地域の治安状況
  - (6) 区内の治安が良いと感じる点
  - (7) 区内の治安が悪いと感じる点
  - (8) 治安対策として区に力を入れてほしいこと
  - (9) 駐車時の鍵かけ状況
-



## 7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

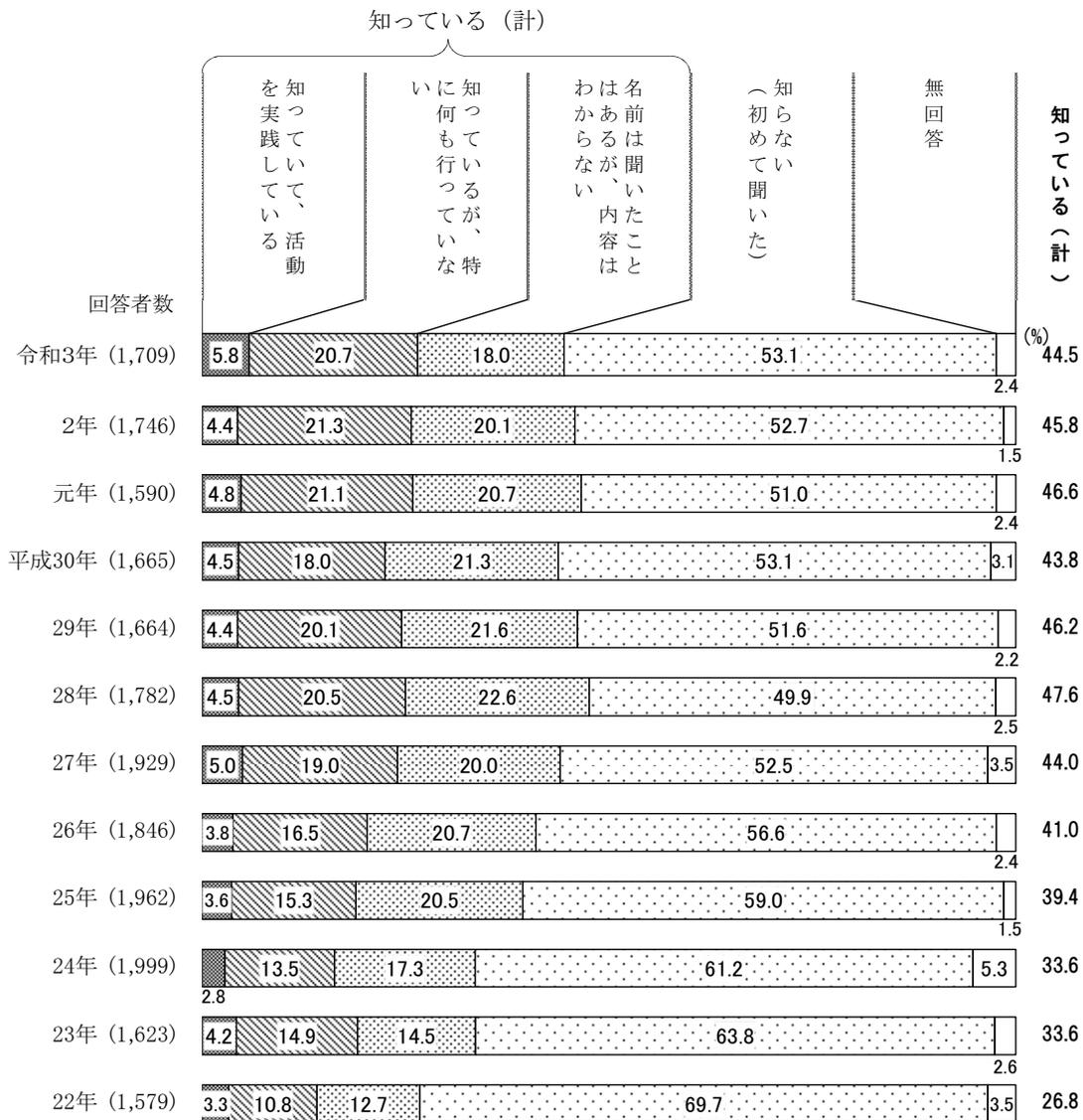
### (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

■【知っている】が4割台半ば、「知らない（初めて聞いた）」が5割台半ば近く

問32 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動（※）」という取り組みを知っていますか（○は1つだけ）。

※「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは、「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。

図7-1-1 経年比較／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



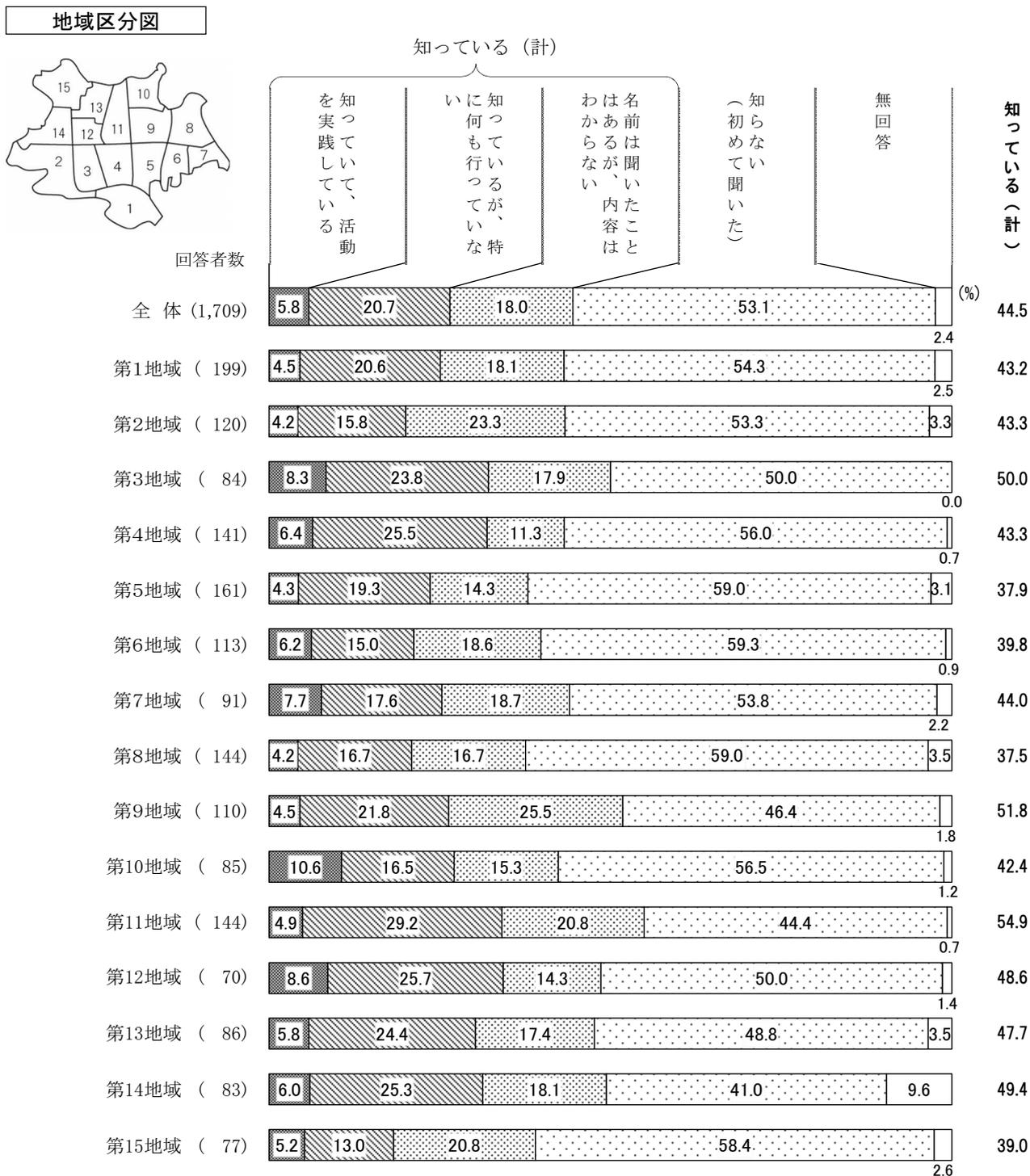
「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、「知っている、活動を実践している」は5.8%で、これに「知っているが、特に何も行ってない」（20.7%）と「名前はあるが、内容はわからない」（18.0%）を合わせた【知っている】は44.5%となっている。一方で、「知らない（初めて聞いた）」は5割台半ば近くとなっている。

前回の令和2年調査との比較では、各認知レベルの回答割合に大きな違いはみられない。

第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

地域別でみると、【知っている】は、第11地域で54.9%と最も高く、第9地域（51.8%）と第3地域（50.0%）でも5割台と高くなっている。一方、第8地域（37.5%）と第5地域（37.9%）で3割台半ばと低くなっている。

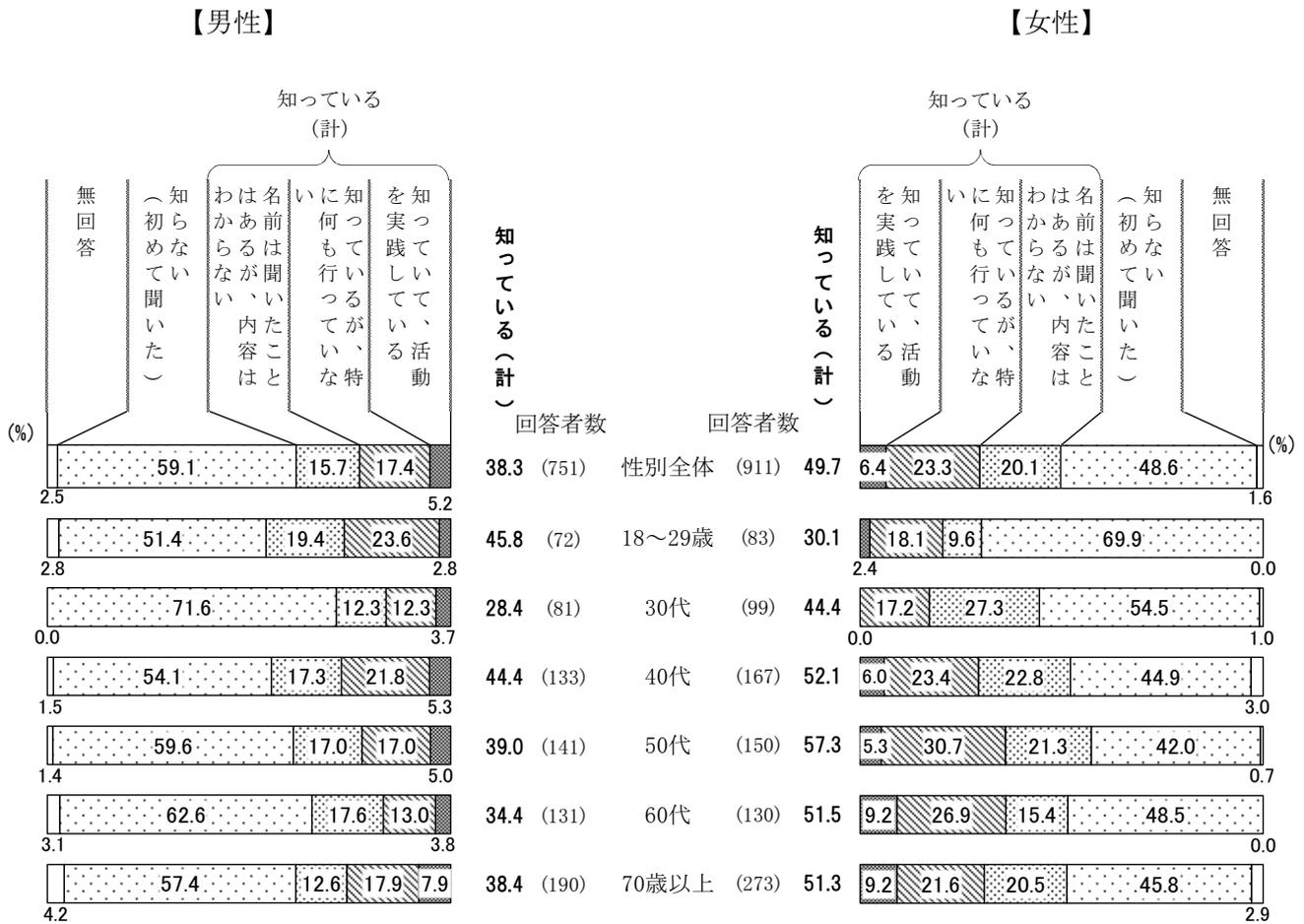
図7-1-2 地域別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



性別でみると、【知っている】は女性（49.7%）の方が男性（38.3%）より11.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性の40代以上で5割台と高く、特に50代で57.3%と最も高くなっている。一方、男性の30代で28.4%と最も低くなっている。

図7-1-3 性別、性・年代別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



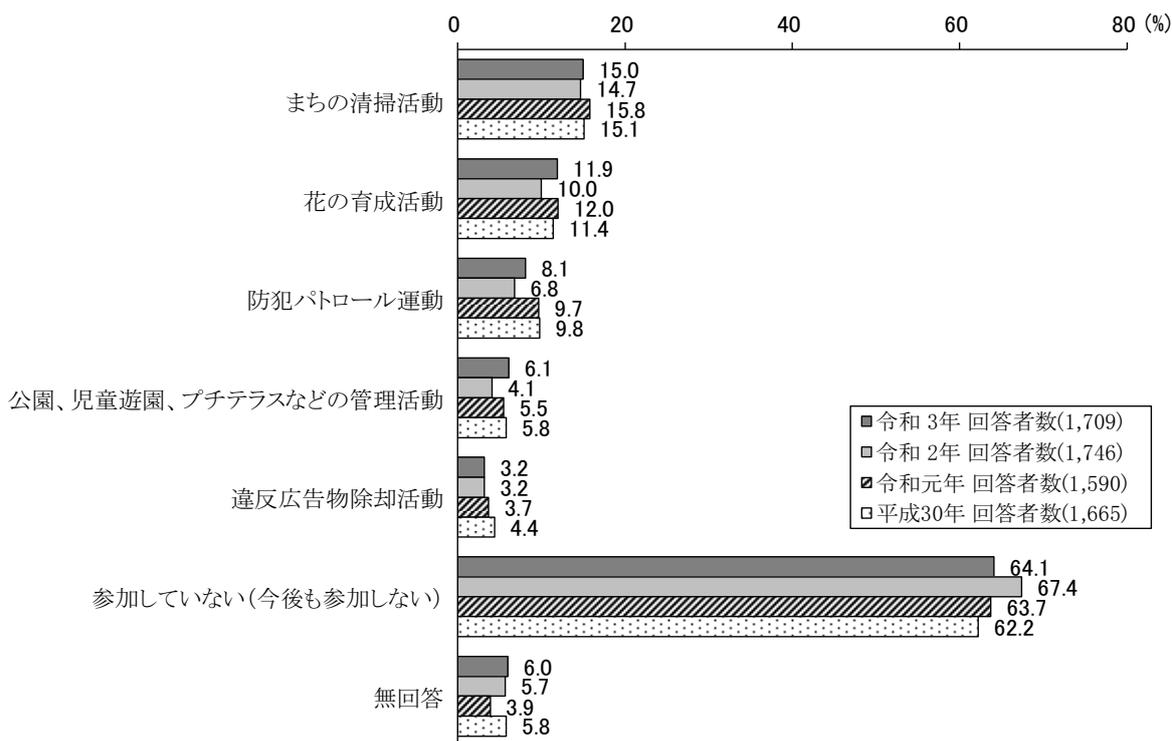
(2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

■「まちの清掃活動」が1割台半ばで最多も、「参加していない(今後も参加しない)」が6割台半ば

問33 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に関連する取り組みのうち、あなたが現在参加している、もしくは今後参加したいものは何ですか（〇はあてはまるものすべて）。

図7-2-1 経年比較

参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み



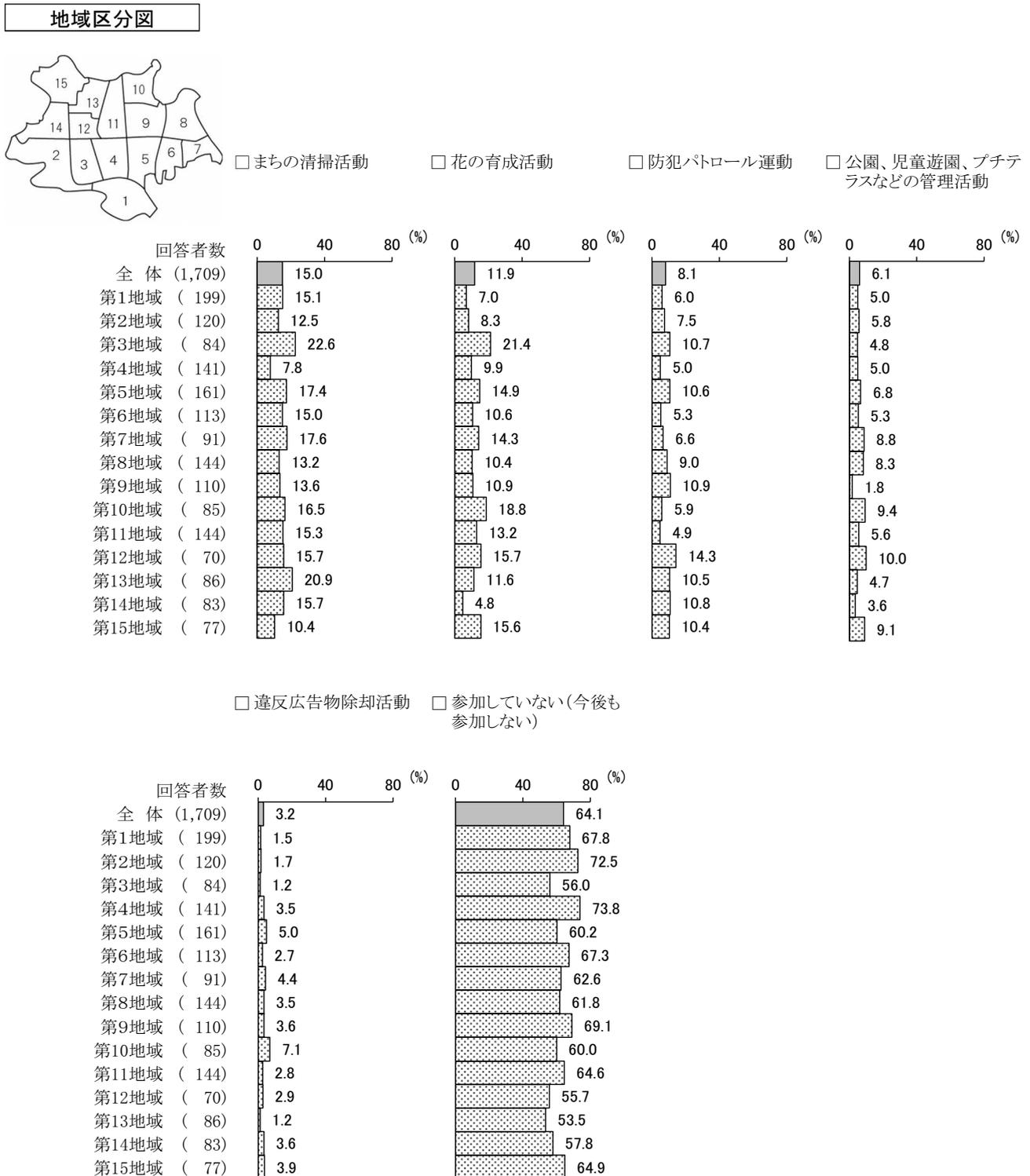
「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に関する取り組みのうち、現在参加している、もしくは今後参加したい取り組みを聞いたところ、「まちの清掃活動」が15.0%で最も高く、次いで「花の育成活動」(11.9%)、「防犯パトロール運動」(8.1%)、「公園、児童遊園、プチテラスなどの管理活動」(6.1%) などとなっている。一方、「参加していない(今後も参加しない)」は64.1%となっている。

前回の令和2年調査と比較すると、「参加していない(今後も参加しない)」は3.3ポイント減少したが、具体的な活動の回答割合では特に大きな違いはみられない。

地域別でみると、「まちの清掃活動」と「花の育成活動」はともに第3地域（22.6%・21.4%）で2割強と最も高くなっている。「防犯パトロール運動」は第12地域で1割台半ばと最も高くなっている。また、「参加していない（今後も参加しない）」は、第4地域で7割台半ば近くと最も高く、次いで第2地域で7割強となっている。一方で、第13地域で5割台半ば近くと最も低くなっている。

図7-2-2 地域別／

参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

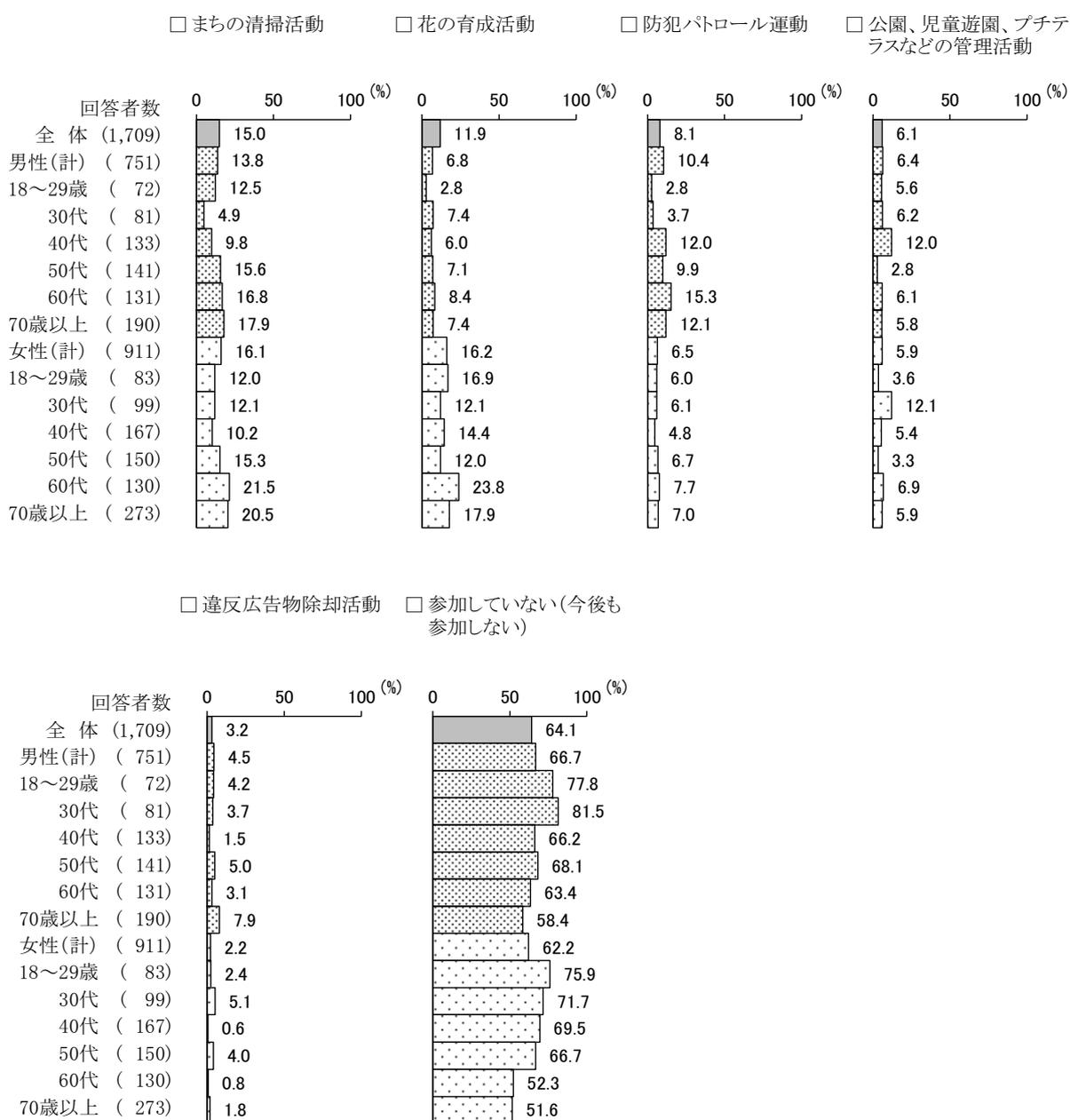


第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

性別でみると、「防犯パトロール運動」は男性（10.4%）の方が女性（6.5%）より3.9ポイント高く、「参加していない（今後も参加しない）」でも男性（66.7%）の方が女性（62.2%）より4.5ポイント高くなっている。逆に「花の育成活動」は女性（16.2%）の方が男性（6.8%）より9.4ポイント高くなっている。

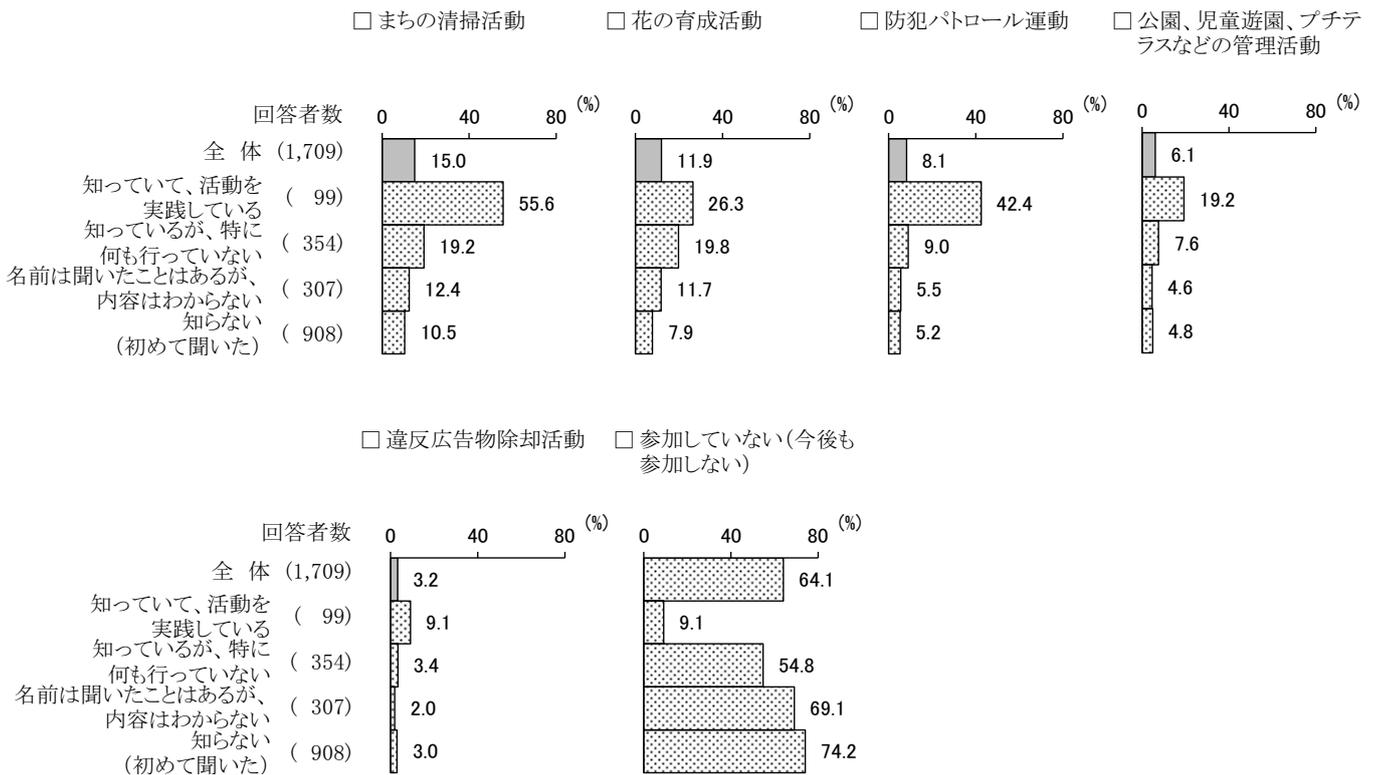
性・年代別でみると、「まちの清掃活動」は女性の60代以上で2割台と高く、「花の育成活動」でも女性の60代が2割台半ば近くで最も高くなっている。一方、「参加していない（今後も参加しない）」は、年代が下がるほどおおむね割合が高くなっており、男性の30代で81.5%と最も高く、女性の70歳以上で51.6%と最も低くなっている。

図7-2-3 性別、性・年代別／  
参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み



「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況別にみると、認知・実践レベルが高いほど、それぞれの取り組みに対する参加率、参加意向が高くなる傾向がみられ、その傾向は〈知っている、活動を実践している〉層でとくに顕著で、「まちの清掃活動」(55.6%)で40.6ポイント、「防犯パトロール運動」(42.4%)で34.3ポイント、「花の育成活動」(26.3%)で14.4ポイント、それぞれ全体に比べて高くなっている。

図7-2-4 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況別／  
参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み



(3) 『花のビュー坊プレート』『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況

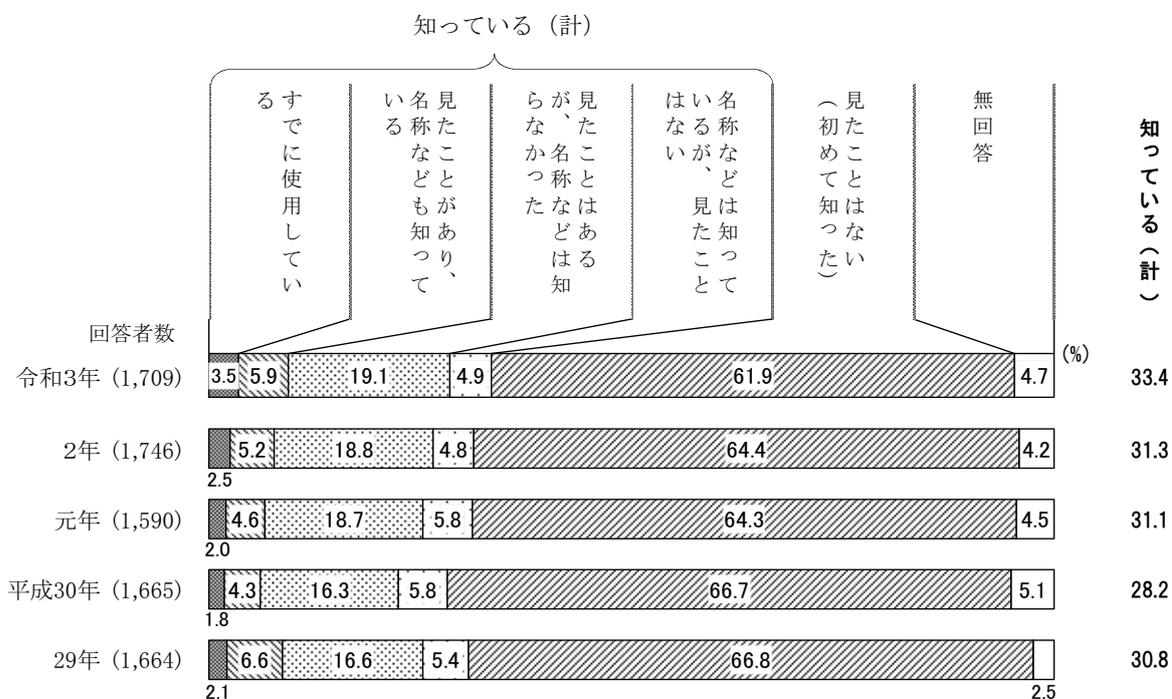
■ 「見たことはない（初めて知った）」が6割強と変わらず最高

問34 あなたの行動範囲で、「花のあるまちかど事業（※）」の『花のビュー坊プレート』や『ビュー坊のガーデンピック』を見たことがありますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

※「花のあるまちかど事業」とは、玄関先や店先で鉢植えやプランターを飾ったり、公園や公共施設などの花壇で花を育てることにより、まちを彩ることと、花の手入れを行う際の人の目で犯罪を抑止しようとする事業です。植木鉢などに『花のビュー坊プレート』や『ビュー坊のガーデンピック』をさして、事業をアピールしています。

『花のビュー坊プレート』

図7-3-1-① 経年比較／『花のビュー坊プレート』の認知状況

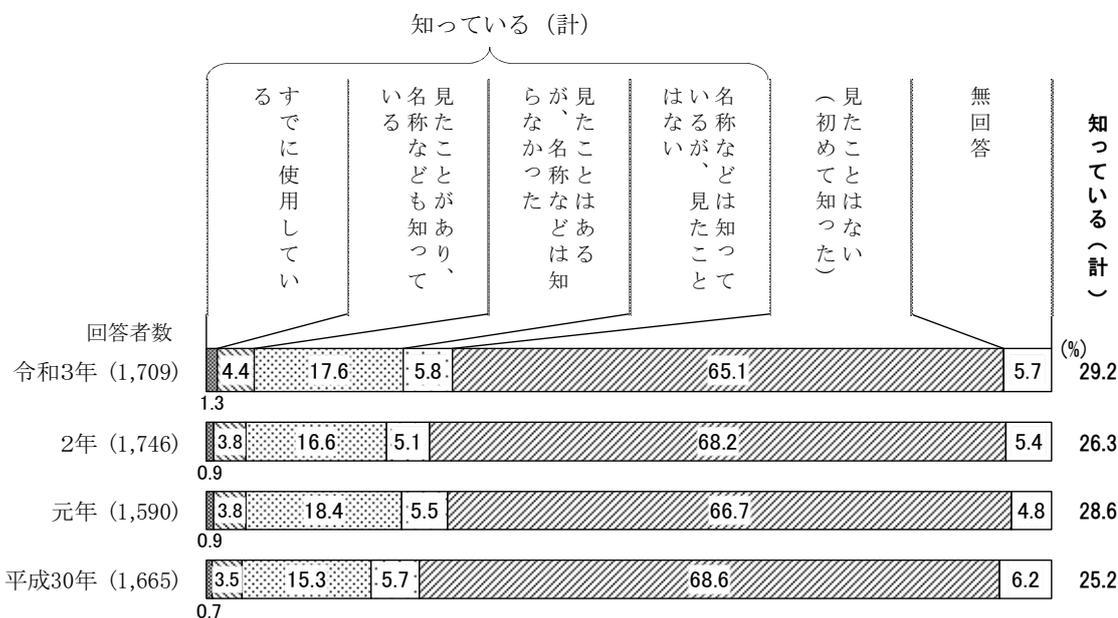


『花のビュー坊プレート』を「すでに使用している」は3.5%で、これに「見たことあり、名称なども知っている」（5.9%）、「見たことはあるが、名称などは知らなかった」（19.1%）、「名称などは知っているが、見たことはない」（4.9%）を合わせた【知っている】は33.4%となっている。一方、「見たことはない（初めて知った）」は61.9%となっている。

経年でみると、【知っている】は前回調査（31.3%）から2.1ポイントの微増となっている。

『ビュー坊のガーデンピック』

図7-3-1-② 経年比較／『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況



『ビュー坊のガーデンピック』を「すでに使用している」は1.3%で、これに「見たことがあり、名称なども知っている」(4.4%)、「見たことはあるが、名称などは知らなかった」(17.6%)、「名称などは知っているが、見たことはない」(5.8%)を合わせた【知っている】は29.2%となっている。一方、「見たことはない(初めて知った)」は65.1%となっている。

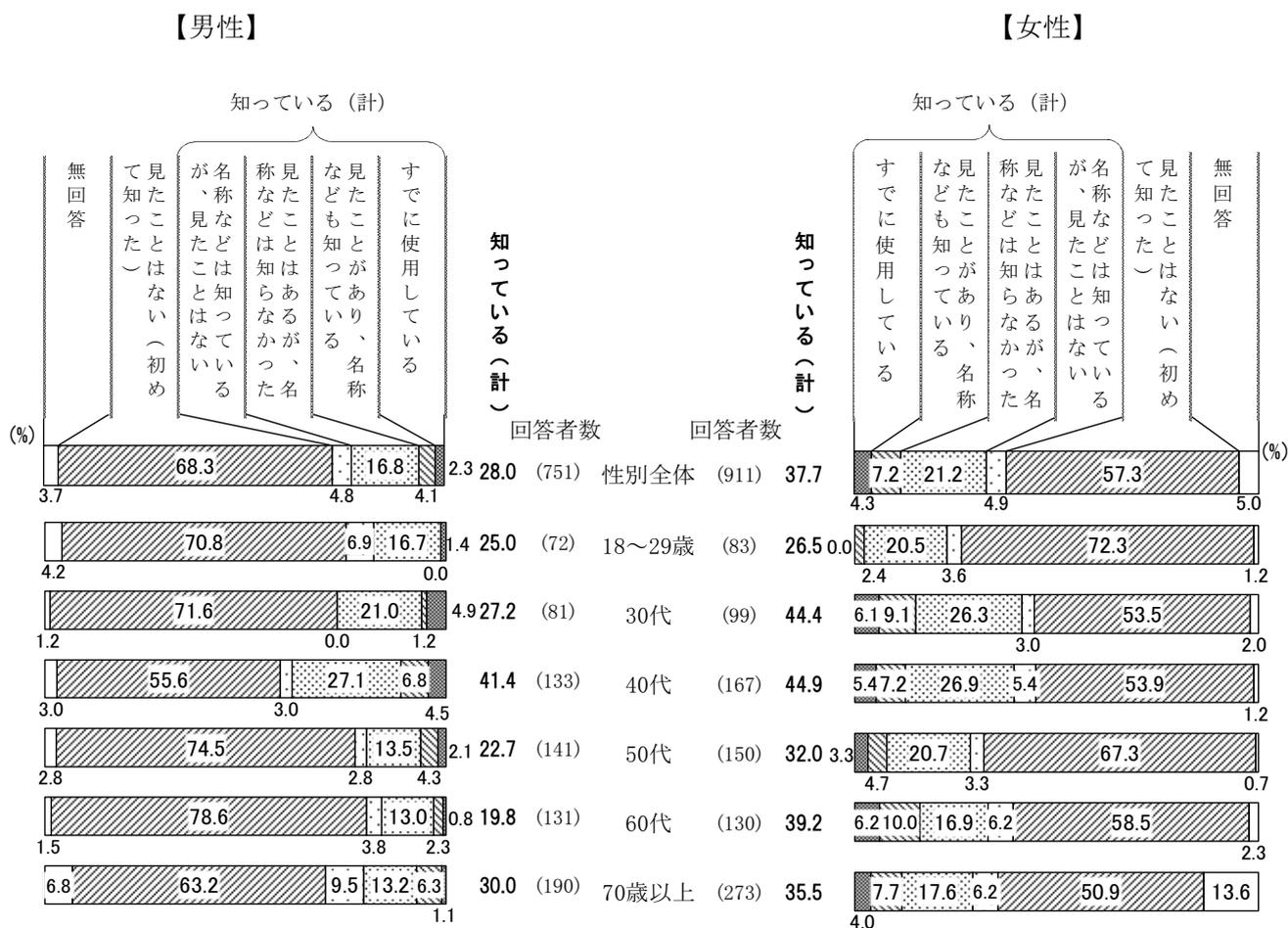
経年でみると、【知っている】は前回調査(26.3%)から2.9ポイントの微増となっており、「見たことはない(初めて知った)」が前回調査(68.2%)から3.1ポイント減少している。

第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

『花のビュー坊プレート』の認知状況を性別で見ると、【知っている】は女性（37.7%）の方が男性（28.0%）より9.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【知っている】は、女性の40代で44.9%と最も高く、次いで、女性の30代（44.4%）、男性の40代（41.4%）で4割台となっている。一方、男性の60代で19.8%と最も低くなっている。

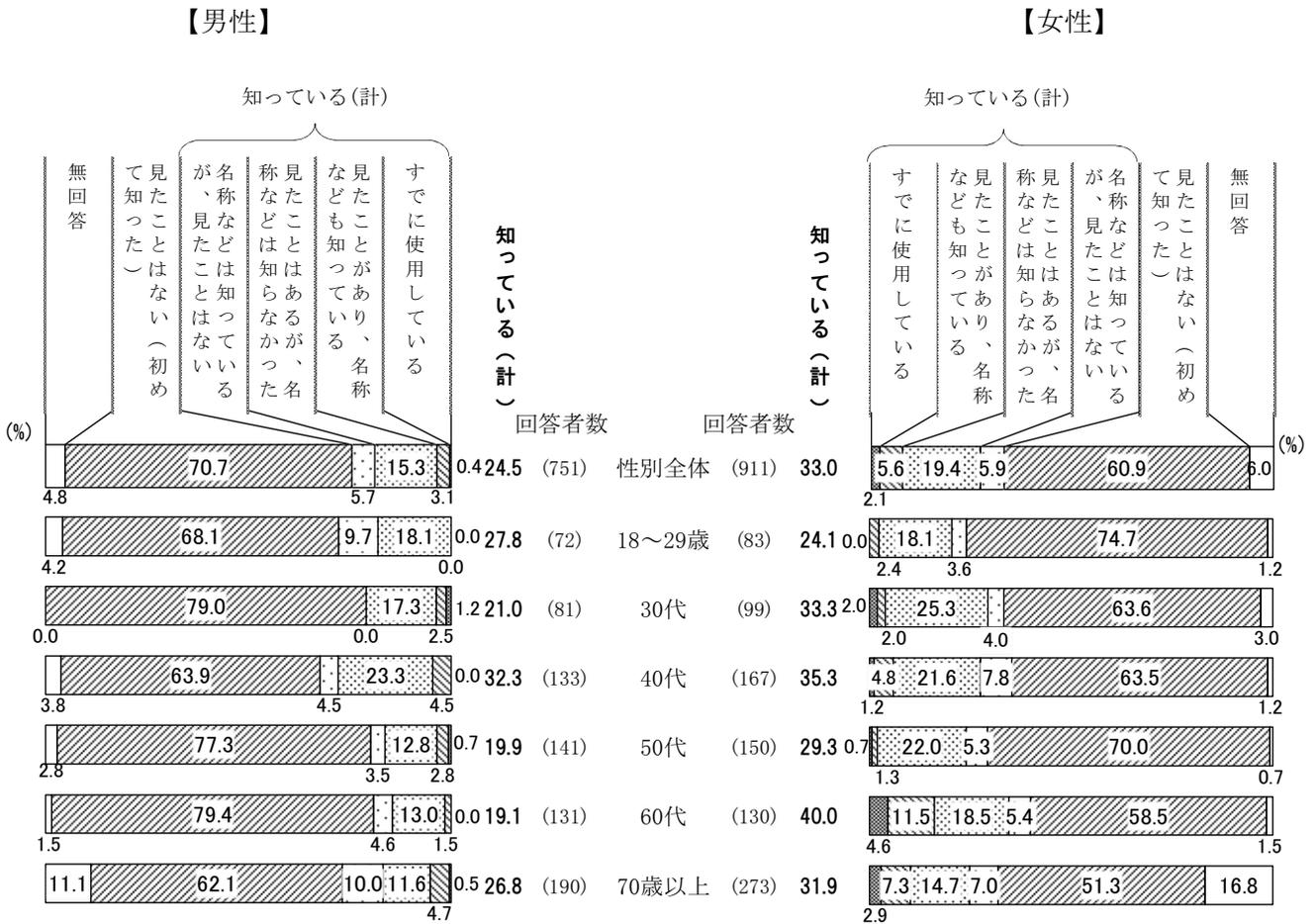
図7-3-2-① 性別、性・年代別／『花のビュー坊プレート』の認知状況



『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況を性別でみると、【知っている】は女性（33.0%）の方が男性（24.5%）より8.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は、女性の60代で40.0%と最も高く、次いで女性の40代（35.3%）となっている。一方、男性の50代と60代でそれぞれ約2割と最も低くなっている。

図7-3-2-② 性別、性・年代別／『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況



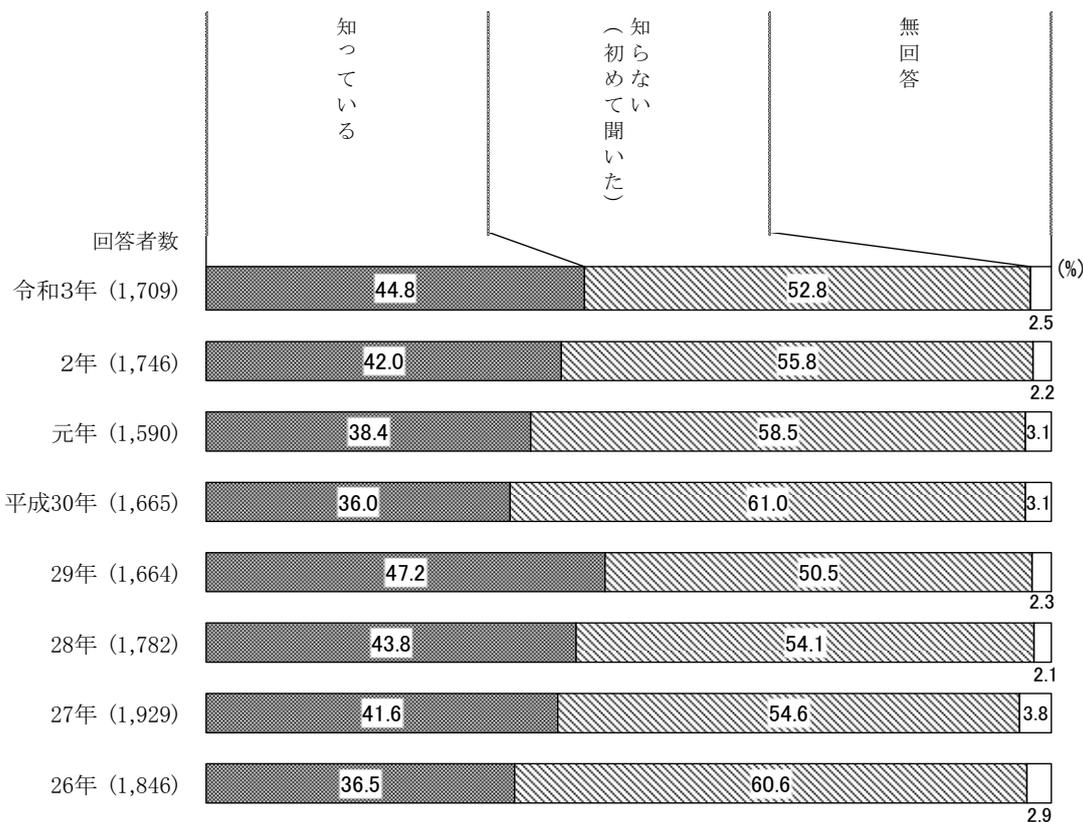
(4) 治安が改善していることの認知

■ 「知っている」が4割台半ば、「知らない（初めて聞いた）」が5割強

問35 あなたは、足立区内の刑法犯認知件数（※）が、ピークであった平成13年と比較して1万件以上、減少していることを知っていますか（○は1つだけ）。

※ 警察が犯罪について、被害の届出などによりその発生を確認した件数。ただし、交通違反などを除きます。

図7-4-1 経年比較／治安が改善していることの認知



※ 平成29年度までの設問文は、「あなたは、平成〇年の足立区内の刑法犯認知件数（※）が減少し、治安が改善していることを知っていますか。

（※）は質問文に続き「警察が犯罪について、被害の届出などによりその発生を確認した件数。ただし、交通違反などを除きます。」の説明文あり。

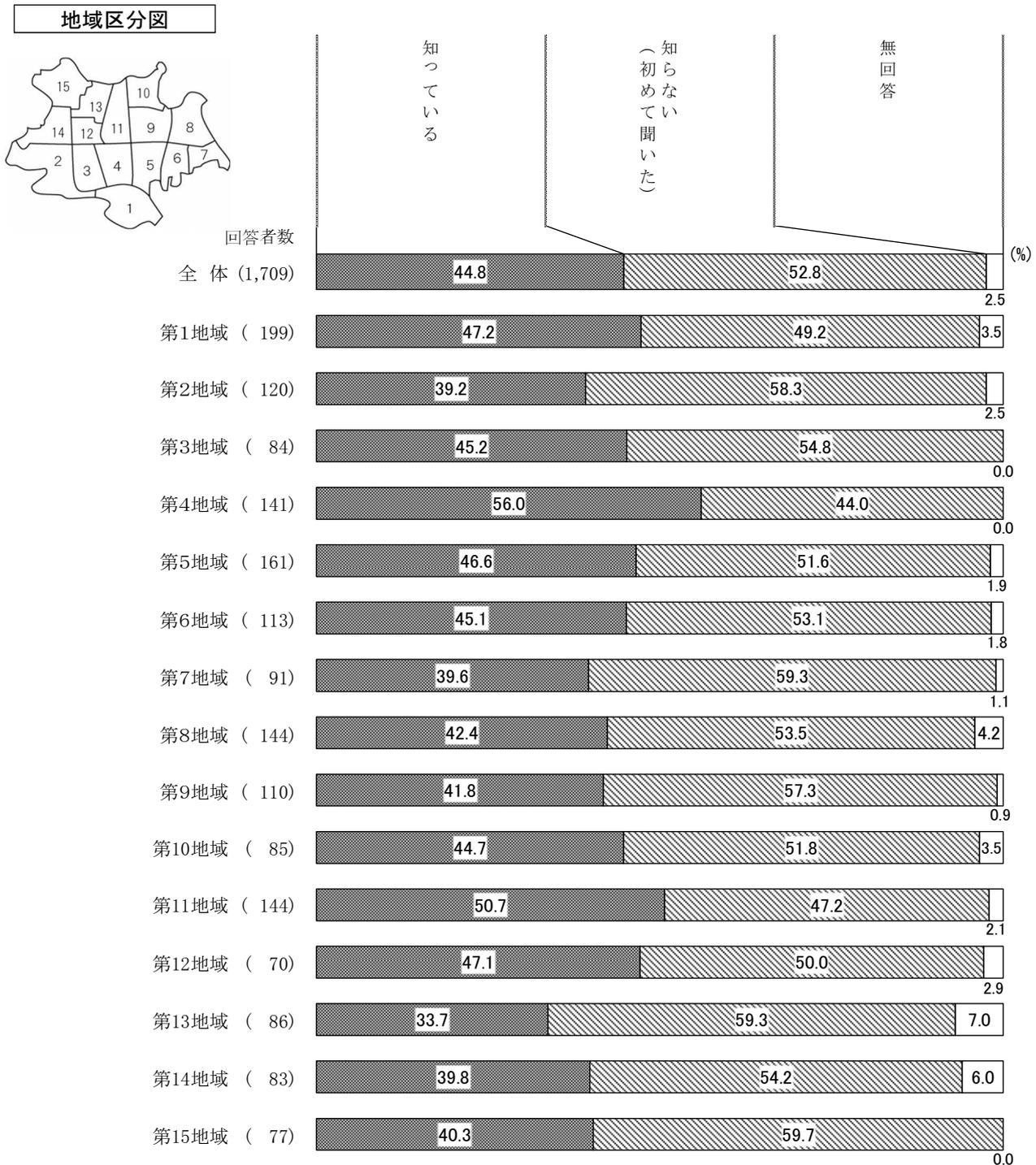
※ 平成30年度と令和元年度の設問文は、「あなたは、足立区内の刑法犯認知件数（※）がピーク時から1万件以上、減少していることをご存知ですか。」で聴取。なお、（※）の説明文は今年度と同じで変更なし。

足立区内の刑法犯認知件数がピークであった平成13年と比較して1万件以上減少していることについて、「知っている」は44.8%で、「知らない（初めて聞いた）」は52.8%となっている。

経年でみると、「知っている」は設問文が大きく変わった平成30年以降は増加を続けており、前回調査（42.0%）からも2.8ポイント増加している。

地域別でみると、「知っている」は第4地域で56.0%と最も高く、次いで第11地域（50.7%）となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第2地域、第7地域、第9地域、第13地域、第15地域の5地域で約6割と高くなっている。

図7-4-2 地域別／治安が改善していることの認知

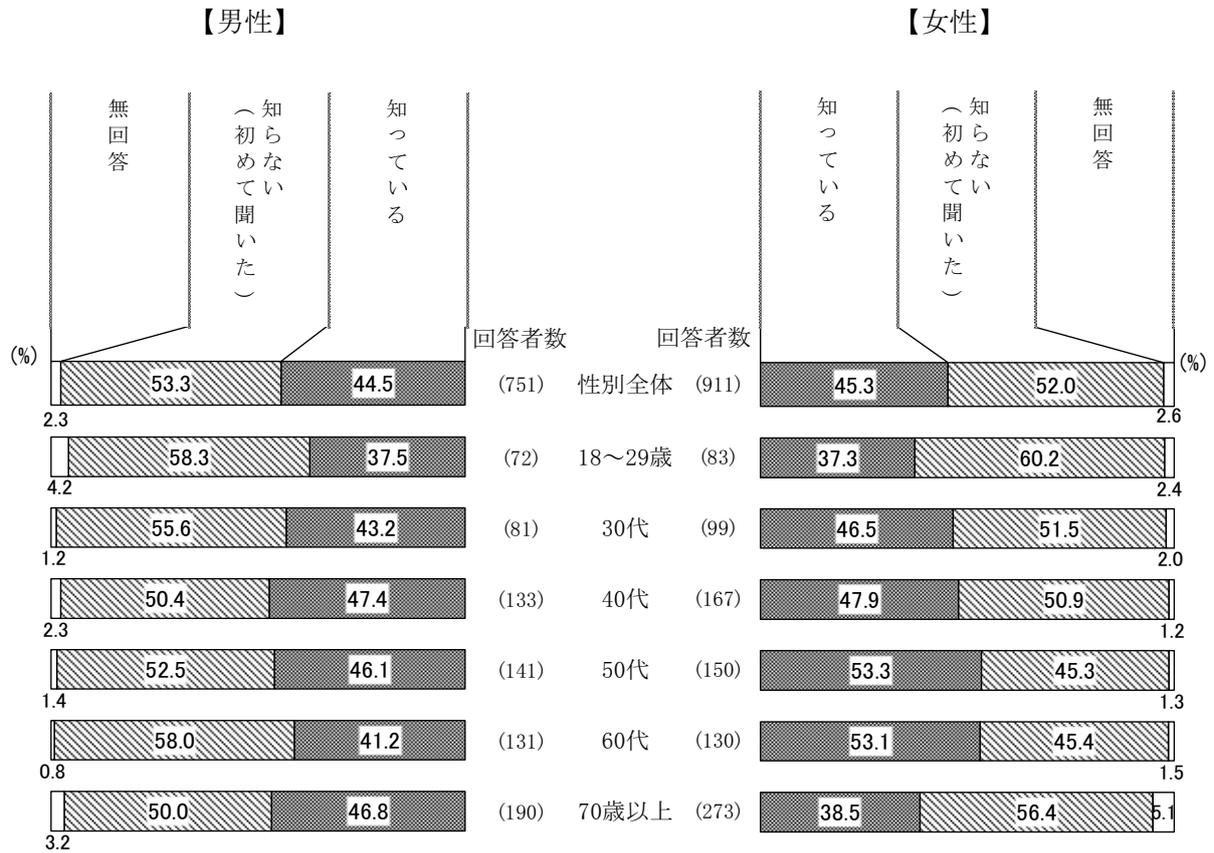


第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

性別では、認知割合に特に大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、「知っている」は、女性の50代（53.3%）と60代（53.1%）で5割台半ばと高くなっている。一方、男女とも18～29歳で3割台半ばと低くなっている。

図7-4-3 性別、性・年代別／治安が改善していることの認知



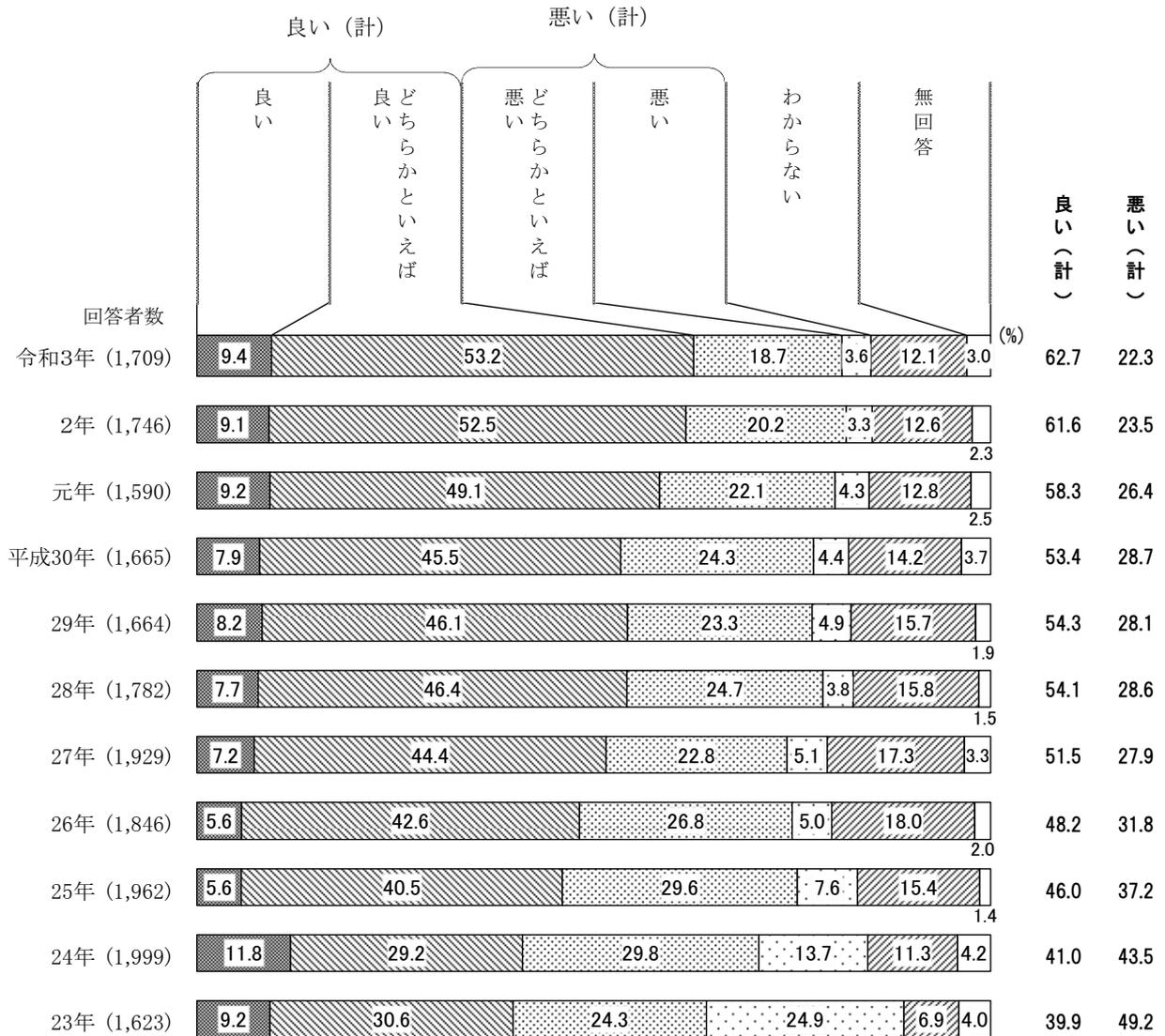
(5) 居住地域の治安状況

■【良い】は6割強で、平成23年調査以降は漸増が続く

問36 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか（○は1つだけ）。

※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

図7-5-1 経年比較／居住地域の治安状況



住んでいる地域の治安について、「良い」が9.4%で、これに「どちらかといえば良い」(53.2%)を合わせた【良い】は6割強となっている。一方、「どちらかといえば悪い」(18.7%)と「悪い」(3.6%)を合わせた【悪い】は2割強となっている。

経年で見ると、【良い】は、前回の令和2年調査の比較では大きな違いはないものの、平成23年調査の39.9%から漸増しており、この10年間で22.8ポイント増加している。

第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

地域別でみると、【良い】は第7地域で73.6%と最も高く、僅差で第1地域（73.4%）が続いている。一方、【悪い】は第11地域で31.9%と最も高く、僅差で第9地域（31.8%）となっている。

図7-5-2 地域別／居住地域の治安状況

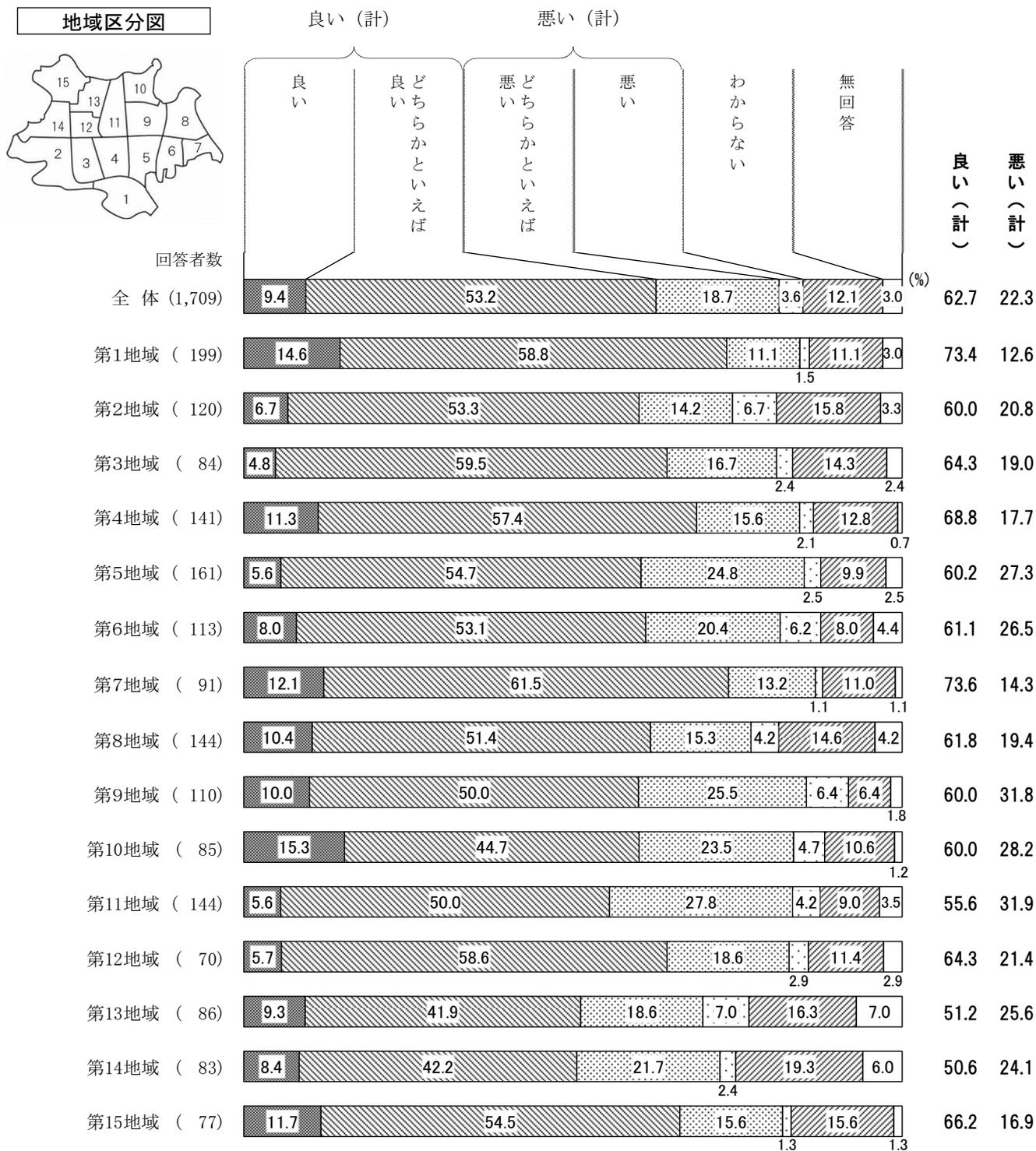
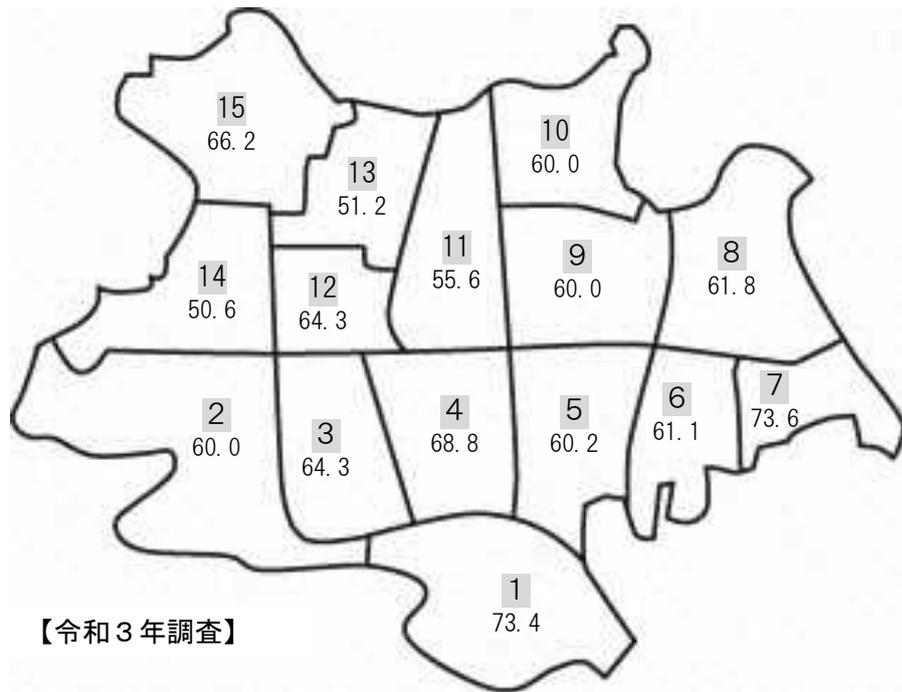
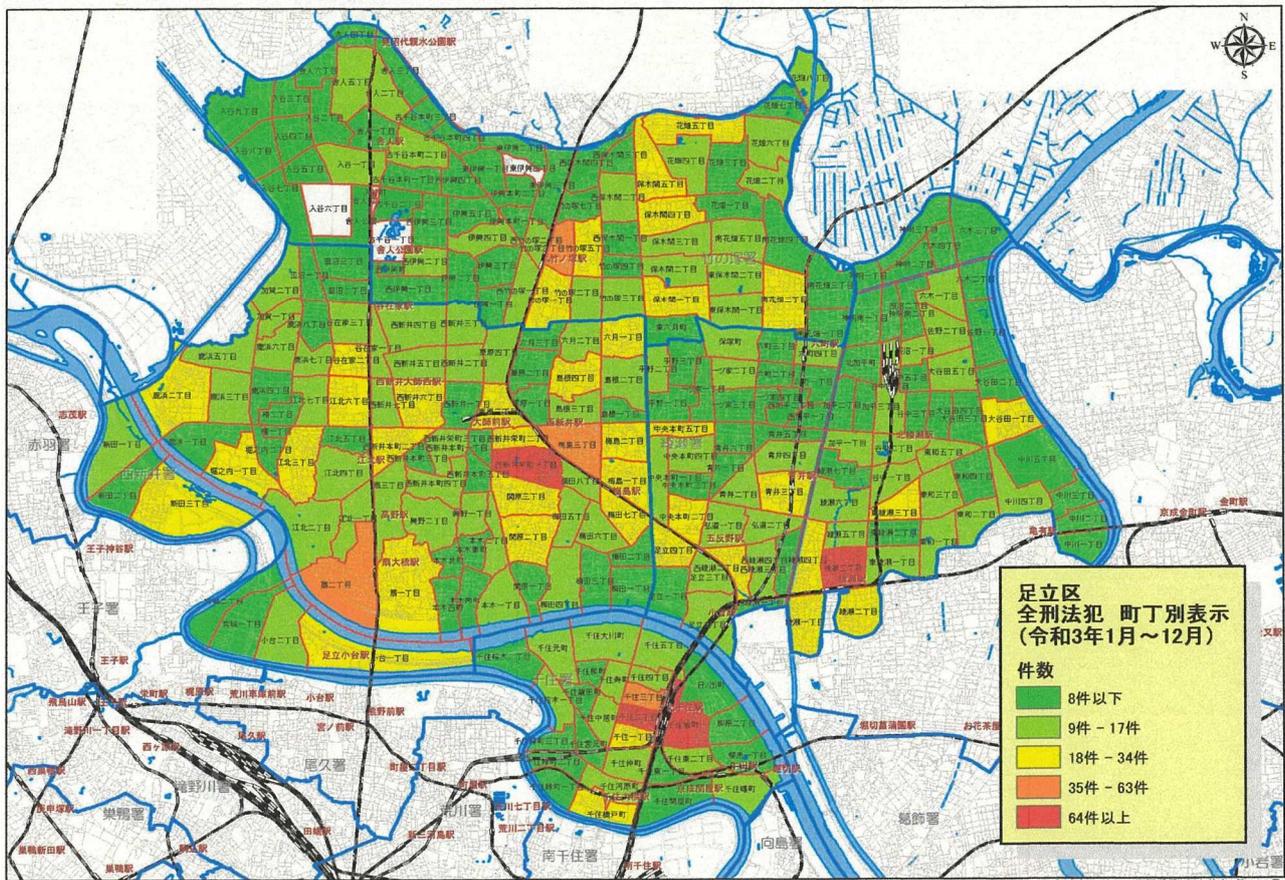


図7-5-3 地域区分図／居住地域の治安状況  
 (上段：地域番号、下段：治安が【良い】と答えた回答者の割合%)



【参考資料】区内全刑法犯認知件数（令和3年1月～12月）

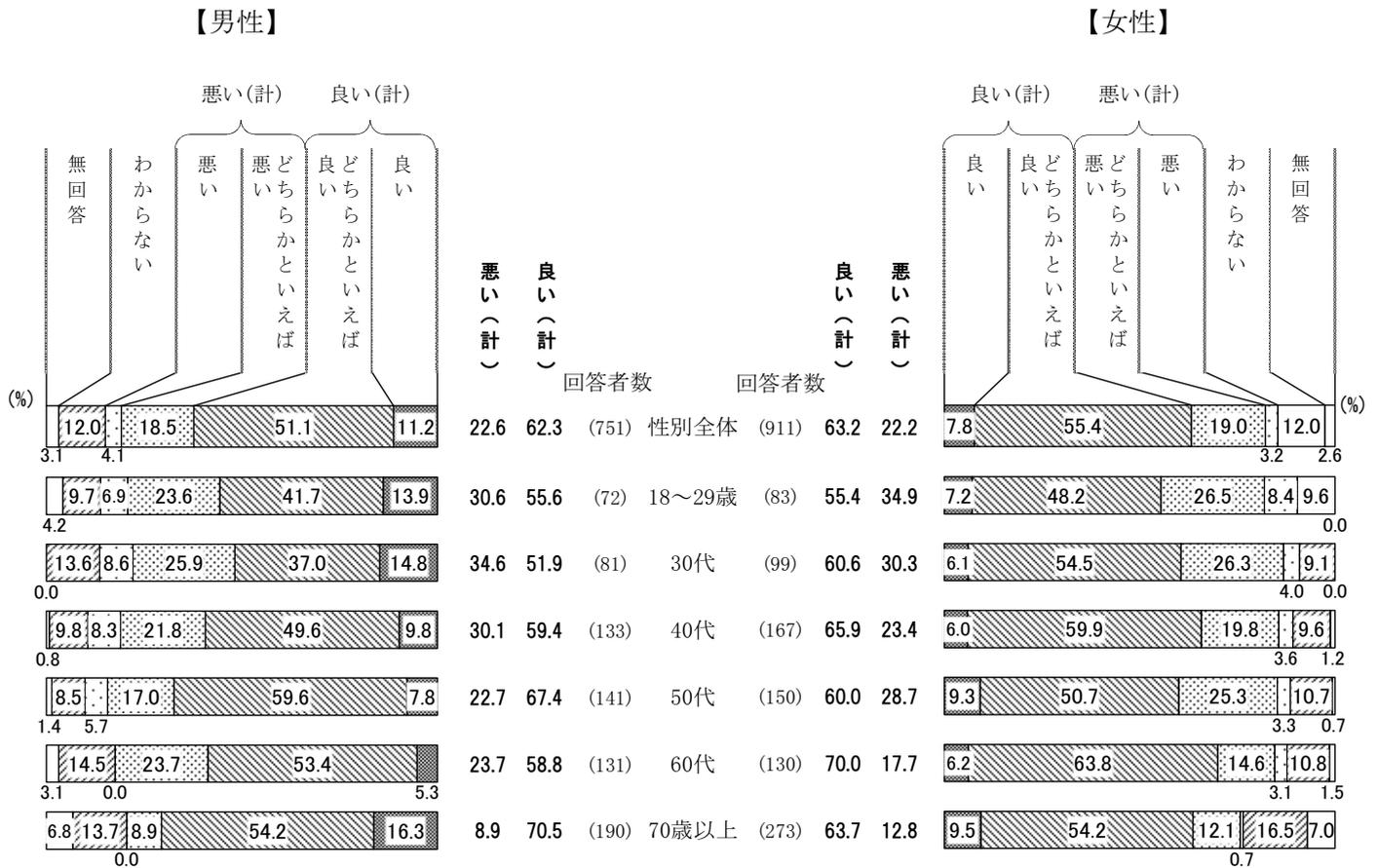


第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

性別で見ると、【良い】では特に違いはないが、「良い」は男性（11.2%）の方が女性（7.8%）より3.4ポイント高く、「どちらかといえば良い」は女性（55.4%）の方が男性（51.1%）より4.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【良い】は、男性の70歳以上で70.5%と最も高く、僅差で女性の60代も70.0%で続いている。一方、【悪い】は女性の18～29歳で34.9%と最も高く、僅差で男性の30代も34.6%で続いている。

図7-5-4 性別、性・年代別／居住地域の治安状況



(6) 区内の治安が良いと感じる点

■ “身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから” が4割台半ばと最も高いものの漸減傾向

問36で「1 良い」または「2 どちらかといえば良い」とお答えの方に  
 問36-1 どのような点で治安が良いと感じますか（〇は2つまで）。

図7-6-1-① 経年比較／区内の治安が良いと感じる点

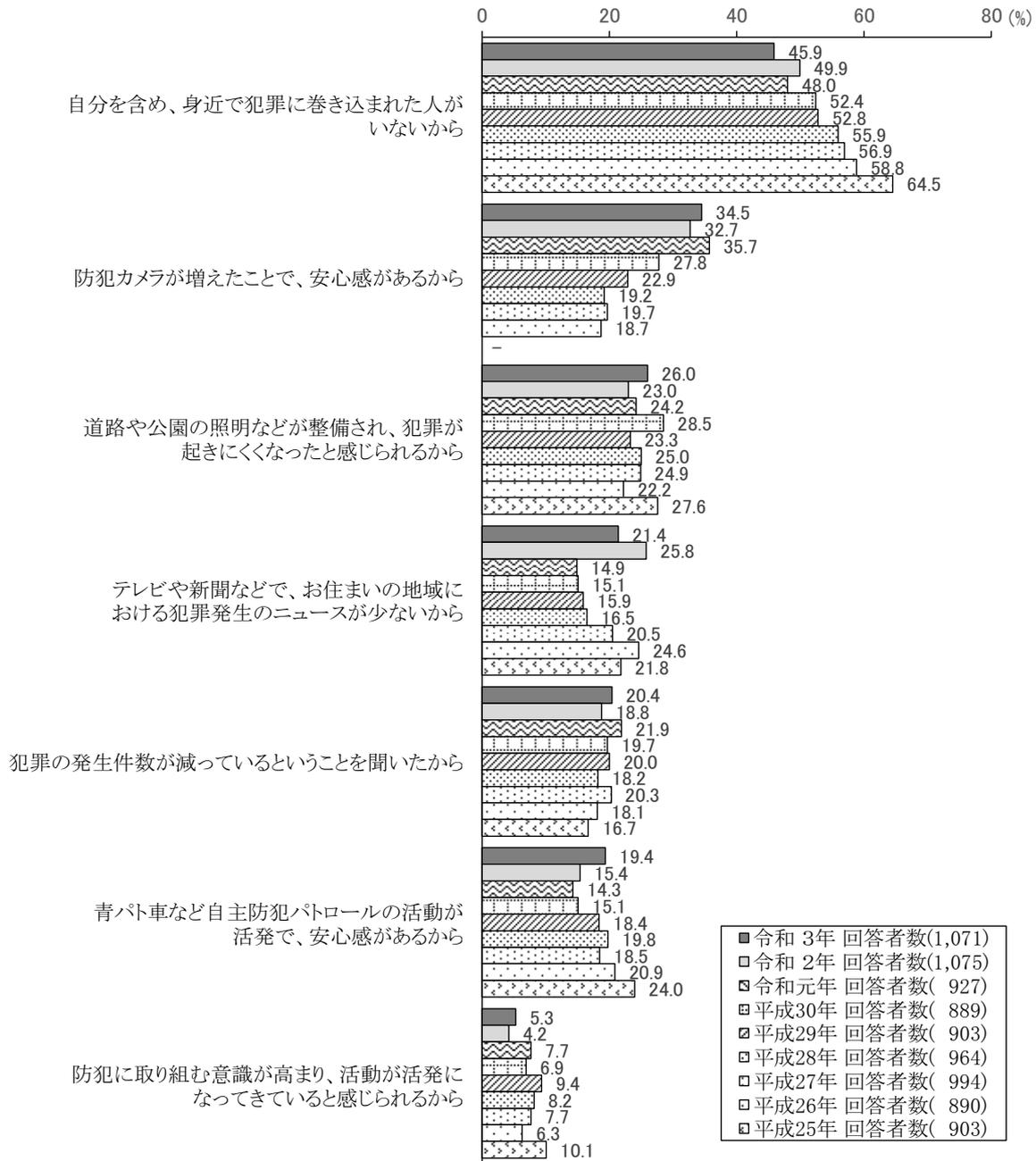
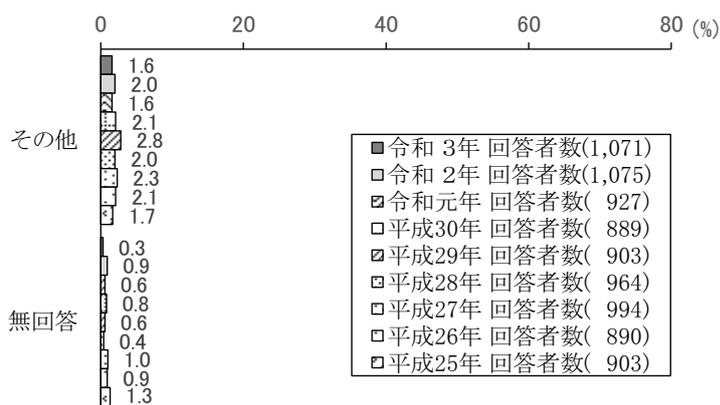


図7-6-1-② 経年比較／区内の治安が良いと感じる点



- ※ 「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」は、平成26年度新設。
- ※ 「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」は、令和元年度までは「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから」。
- ※ 「防犯に取り組む意識が高まり、活動が活発になってきていると感じられるから」は、令和元年度までは「犯罪に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから」、平成25年度では「区全体の防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから」。

居住地域の治安を【良い】と評価した人に、その理由を聴くと、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が45.9%で最も高く、以下「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」(34.5%)、「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」(26.0%)、「テレビや新聞などで、お住まいの地域における犯罪発生のニュースが少ないから」(21.4%)の順となっている。

経年でみると、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は前回調査(49.9%)から4.0ポイント減少しており、平成25年調査(64.5%)から漸減傾向が続き20ポイント近く減少している。また、「テレビや新聞などで、お住まいの地域における犯罪発生のニュースが少ないから」は前回調査に比べ4.4ポイント減少している。

一方、「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」は前回調査から微増しており、平成26年以降はおおむね増加傾向が続いている。また、「青パト車など自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから」が4.0ポイント、「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」が3.0ポイント、それぞれ前回調査に比べて増加している。

地域別でみると、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は第5地域と第8地域で5割半ば近くと高く、第15地域で41.2%と最も低くなっている。「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」は第3地域で5割を超えて最も高く、第11地域で2割台半ば近くと最も低く、地域差が大きい項目となっている。また、「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」は第11地域、第3地域、第12地域で3割台半ば近くと高くなっている。

地域区分図

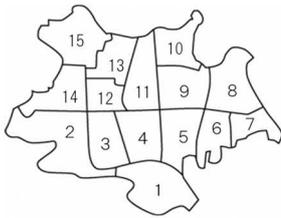
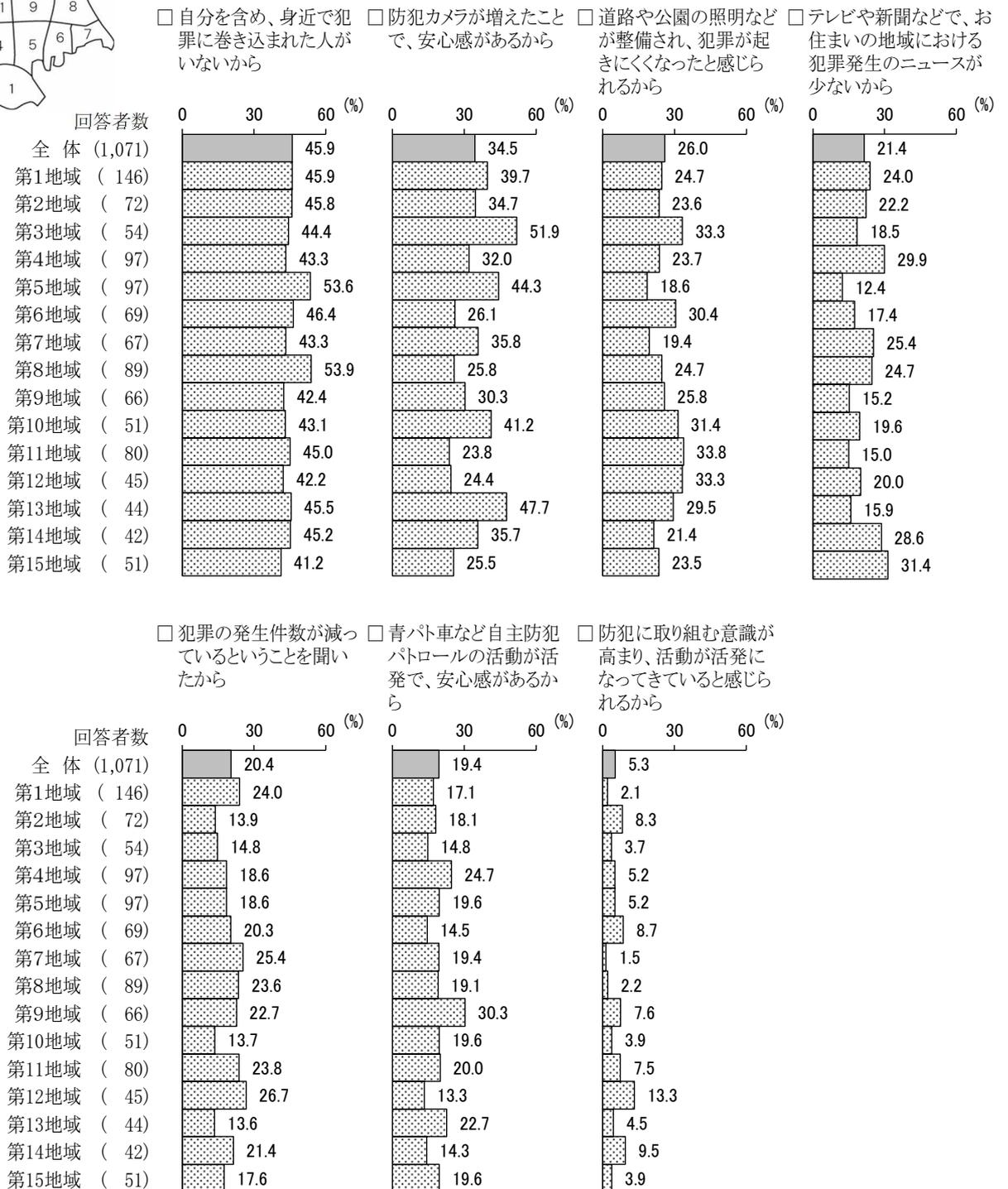


図7-6-2 地域別／区内の治安が良いと感じる点

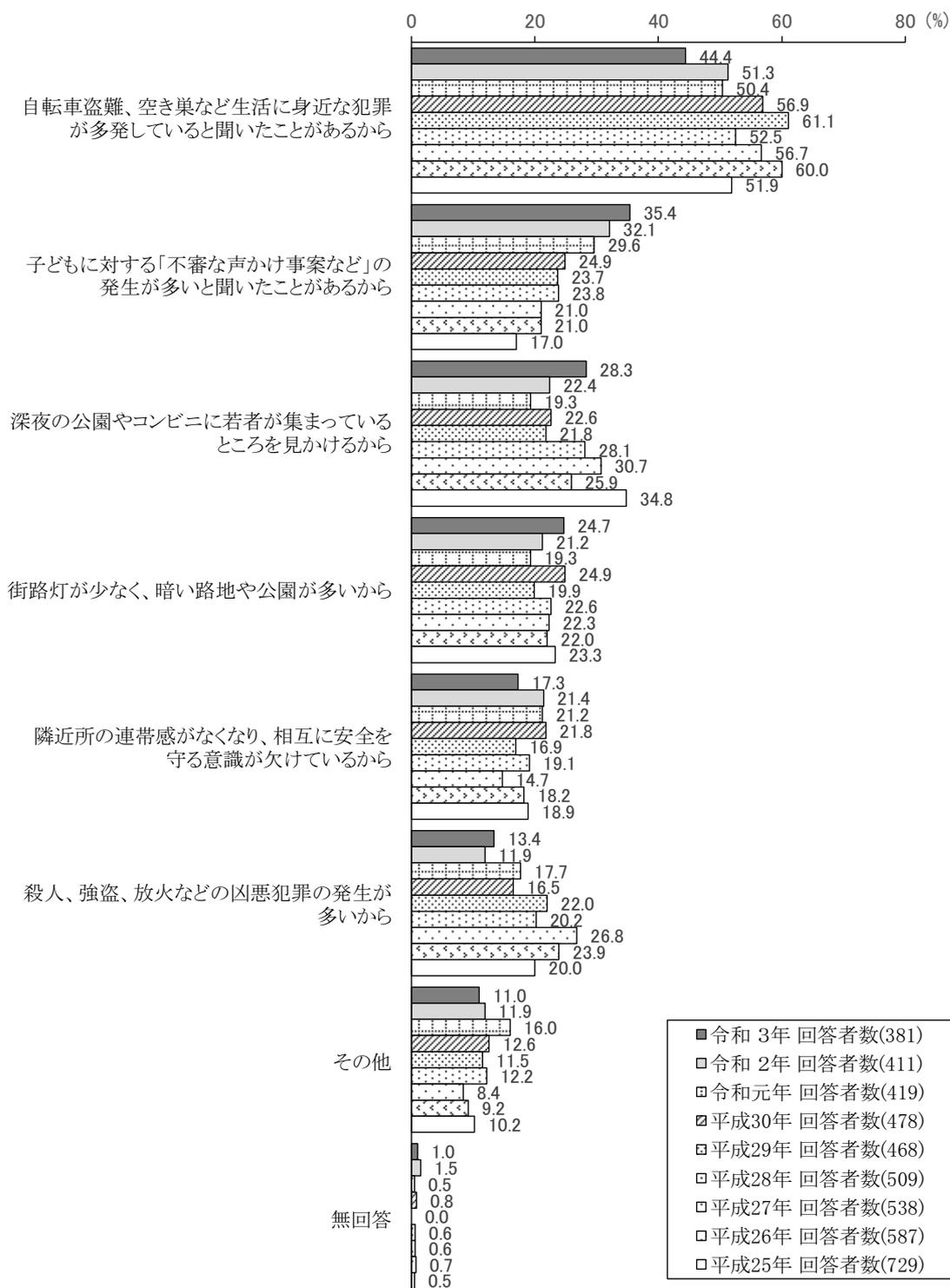


(7) 区内の治安が悪いと感じる点

■ “生活に身近な犯罪が多発していると聞いた” が4割台半ばで1位

問36で「3 どちらかといえば悪い」または「4 悪い」とお答えの方に  
 問36-2 どのような点で治安が悪いと感じますか（〇は2つまで）。

図7-7-1 経年比較／区内の治安が悪いと感じる点



- ※「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」は、25年度では「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発しているから」。
- ※「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多いと聞いたことがあるから」は、25年度では「子どもに対する『不審な声かけ事案等』の発生が多いから」。

居住地域の治安が【悪い】と評価した人に、その理由を聴いたところ、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」が44.4%で最も高く、次いで、「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多いと聞いたことがあるから」(35.4%)、「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」(28.3%)、「街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから」(24.7%)、「隣近所の連帯感がなくなり、相互に安全を守る意識が欠けているから」(17.3%) などとなっている。

経年でみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」は前回調査より6.9ポイント減少しており、平成29年調査から漸減傾向にある。また、「隣近所の連帯感がなくなり、相互に安全を守る意識が欠けているから」も前回調査から4.1ポイント減少している。一方、「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」は前回調査から5.9ポイント、「街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから」は3.5ポイント、「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多いと聞いたことがあるから」は3.3ポイントそれぞれ増加している。

### 第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

地域別でみると、多くの地域で回答者数が少ないことから、参考値としてみる必要があるが、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」は第12地域で高く、第1地域で低くなっている。また、「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多いと聞いたことがあるから」は第7地域で高く、第3地域で低くなっている。「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」は第14地域で高く、第13地域で低くなっている。「街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから」は第15地域で高く、第13地域で低くなっている。

地域区分図

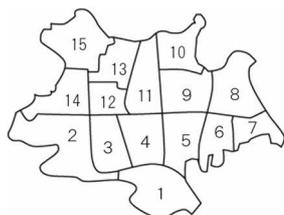
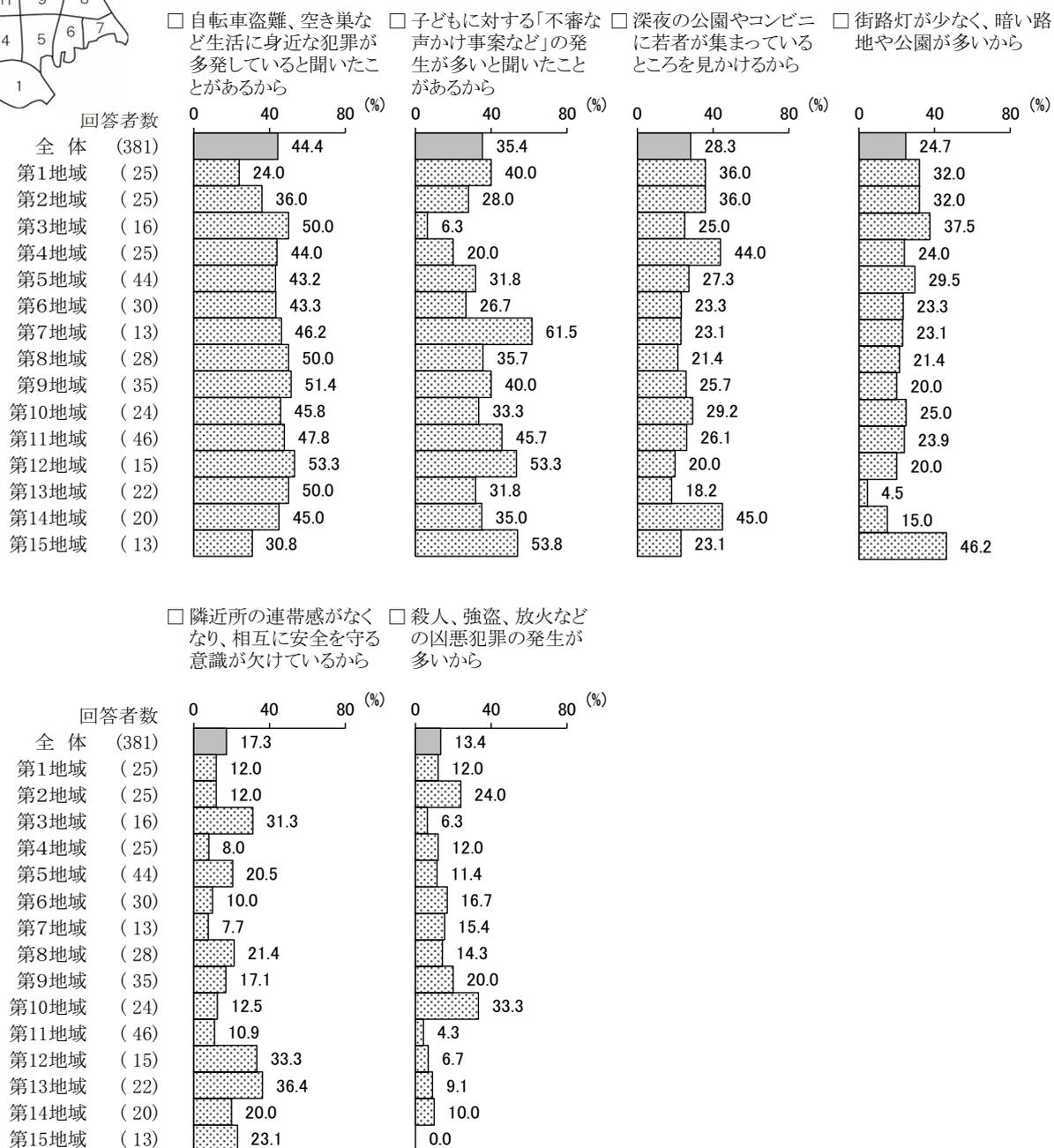


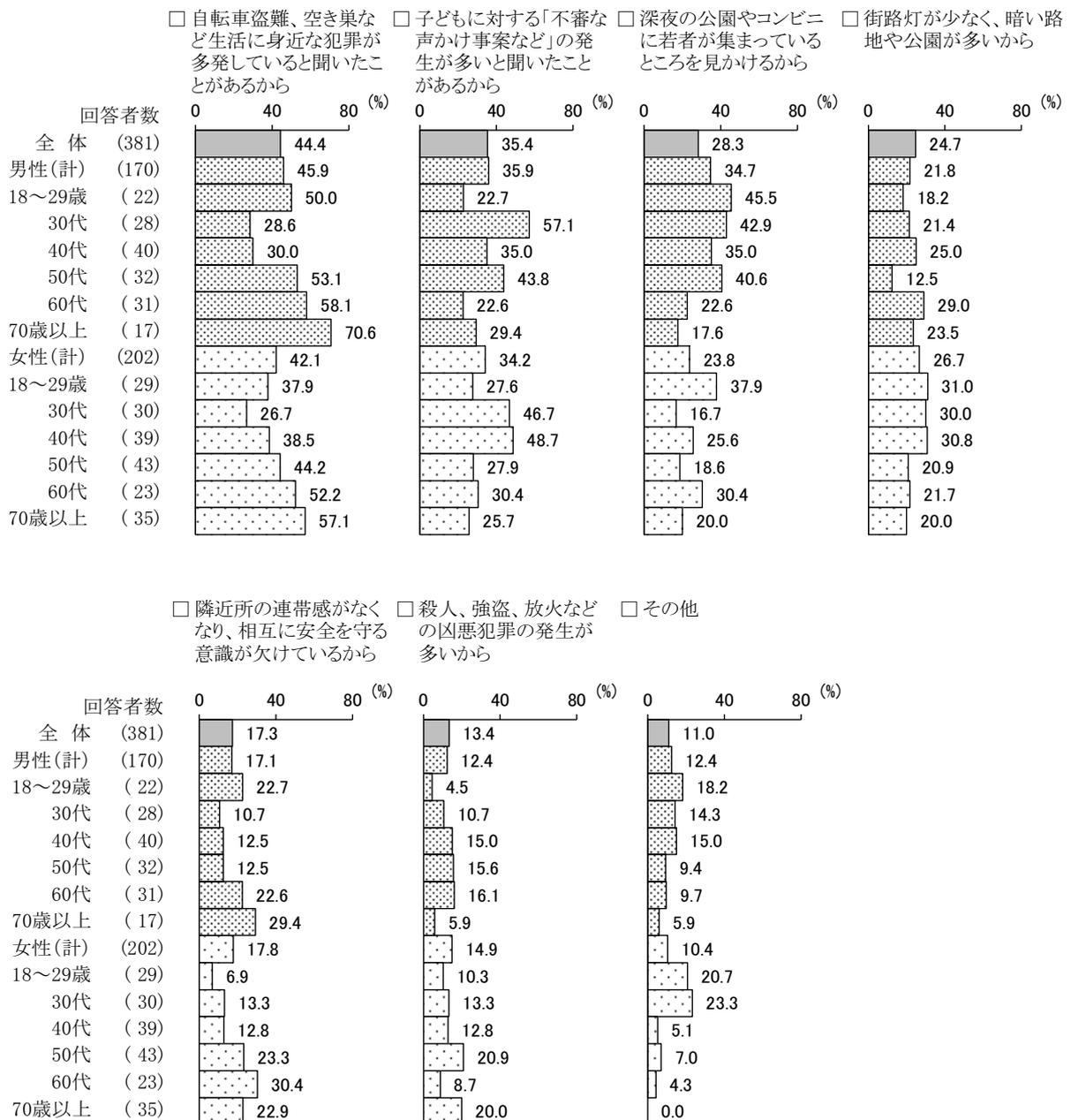
図7-7-2 地域別／区内の治安が悪いと感じる点



性別で見ると、「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」は男性（34.7%）の方が女性（23.8%）より10.9ポイント高く、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」でも男性（45.9%）の方が女性（42.1%）より3.8ポイント高くなっている。一方、「街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから」は女性（26.7%）の方が男性（21.8%）より4.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、多くの性・年代層で回答者数が少ないことから、参考値としてみる必要があるが、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」は男性の70歳以上で高く、女性の30代で低くなっている。「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多いと聞いたことがあるから」は男性の30代で高く、男性の60代で低くなっている。「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」は男性の18～29歳で高く、女性の30代で低くなっている。

図7-7-3 性別、性・年代別／区内の治安が悪いと感じる点



(8) 治安対策として区に力を入れてほしいこと

■「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が5割強

問37 あなたが、治安対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか  
(○は2つまで)。

図7-8-1-① 経年比較／治安対策として区に力を入れてほしいこと

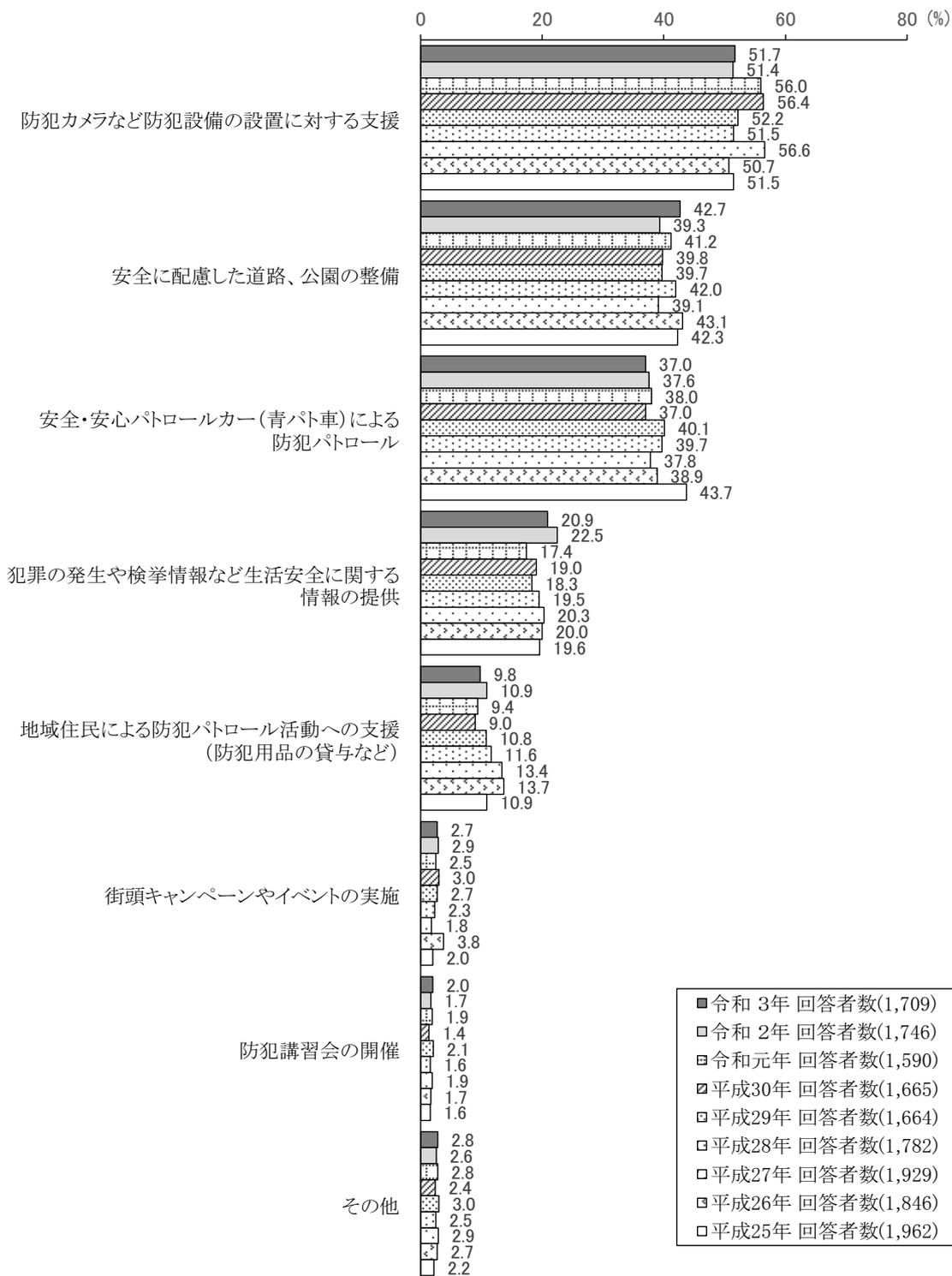
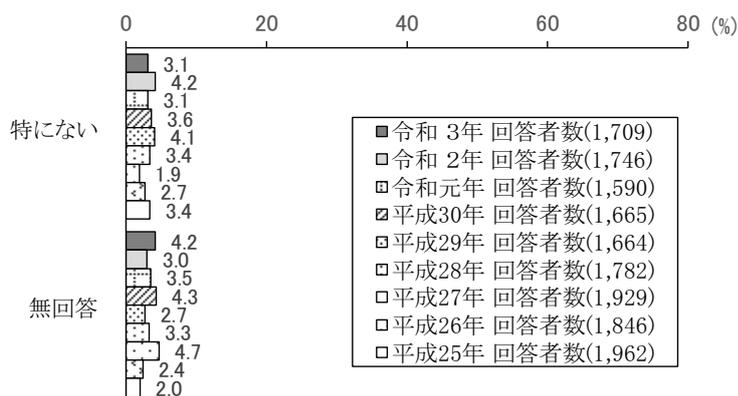


図7-8-1-② 経年比較／治安対策として区に力を入れてほしいこと



※「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は、平成28年度までは「防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援」

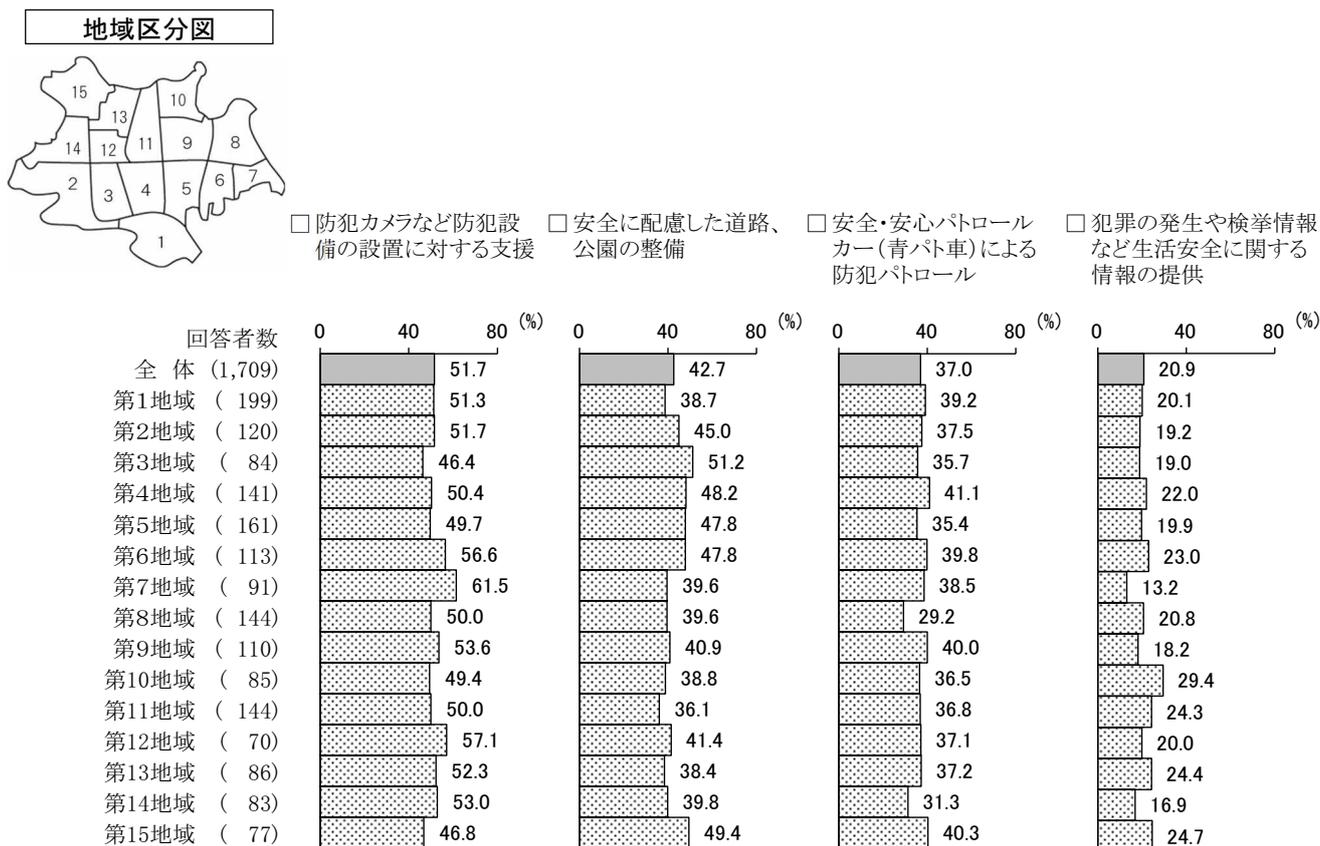
治安対策として足立区に力を入れてほしいこととしては、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が51.7%と最も高く、次いで、「安全に配慮した道路、公園の整備」(42.7%)、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」(37.0%)、「犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供」(20.9%) などとなっている。

経年でみると、「安全に配慮した道路、公園の整備」は前回調査（39.3%）より3.4ポイント増加しているが、他の項目では特に大きな変動はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

地域別でみると、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は第7地域で61.5%と最も高く、第3地域（46.4%）で最も低くなっている。「安全に配慮した道路、公園の整備」は第3地域で51.2%と最も高く、第11地域（36.1%）で最も低くなっている。「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」は第4地域で41.1%と最も高く、第8地域（29.2%）で最も低くなっている。

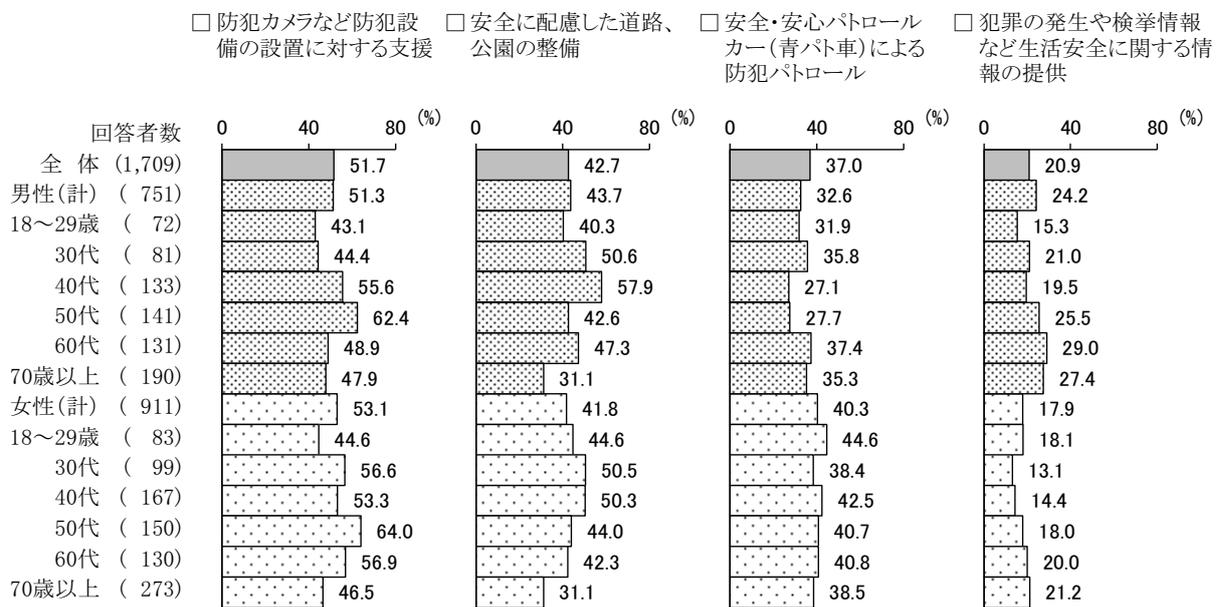
図7-8-2 地域別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目



性別でみると、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」は女性（40.3%）の方が男性（32.6%）より7.7ポイント高く、「犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供」は男性（24.2%）の方が女性（17.9%）より6.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は女性の50代で64.0%と最も高く、男性の18～29歳（43.1%）で最も低くなっている。「安全に配慮した道路、公園の整備」は男性の40代で57.9%と最も高く、男女ともに70歳以上（各31.1%）で最も低くなっている。「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」は女性の18～29歳で44.6%と最も高く、男性の40代（27.1%）で最も低くなっている。

図7-8-3 性別、性・年代別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目



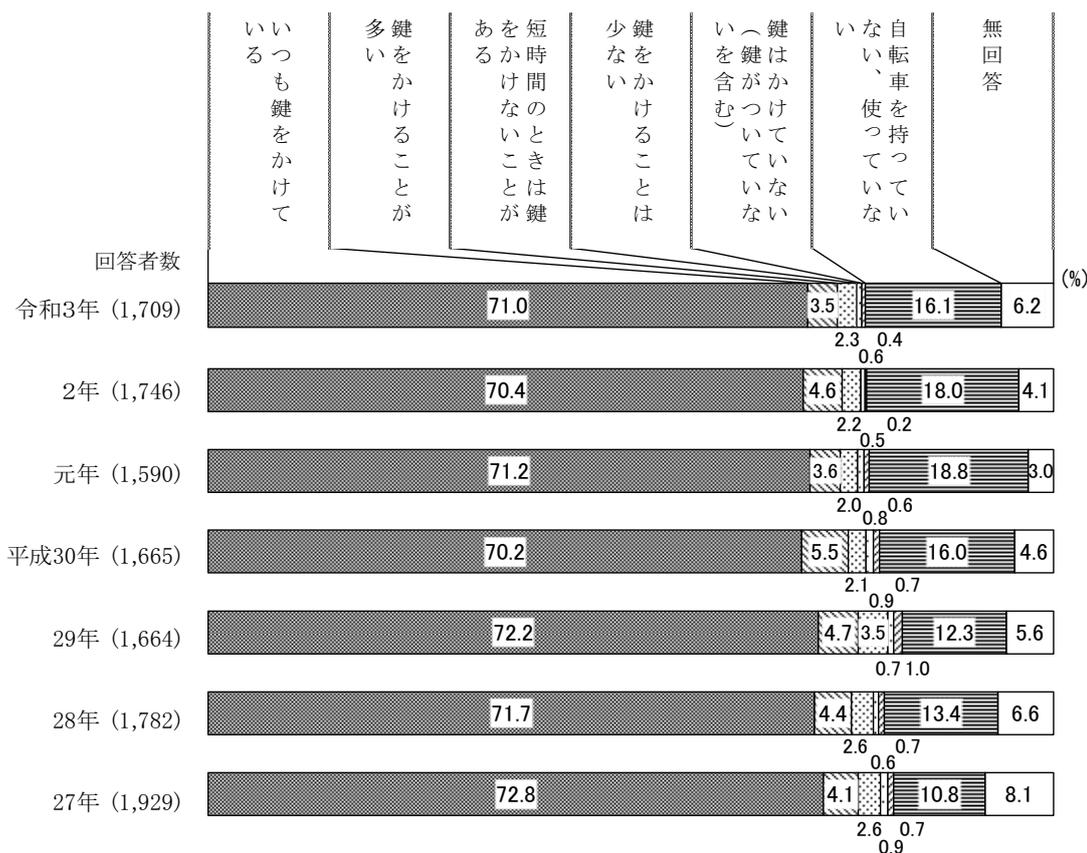
(9) 駐車時の鍵かけ状況

■ 「いつも鍵をかけている」は、外出先が7割強、敷地内が6割強と傾向は変わらず

問38 あなたは、自転車を駐車するときには、自転車に鍵をかけていますか  
(○はそれぞれ1つずつ)。

図7-9-1-① 経年比較/駐車時の鍵かけ状況

ア 外出先で駐車するとき

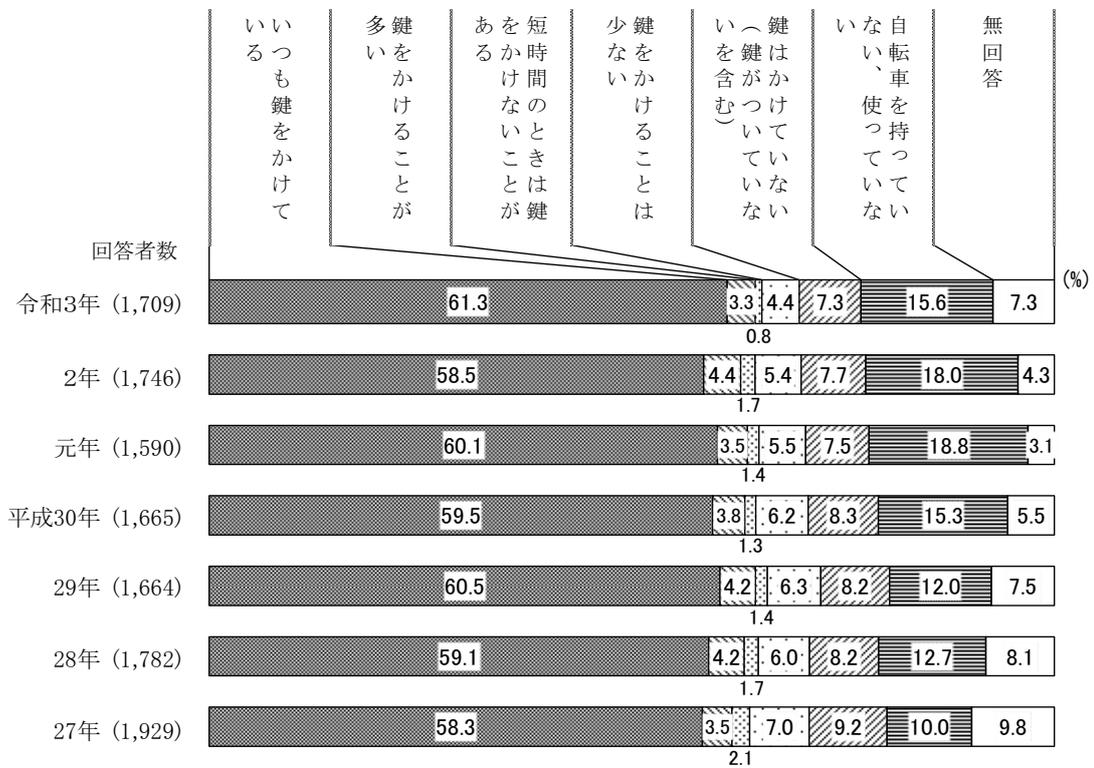


外出先で自転車を駐車するときの鍵かけ状況は、「いつも鍵をかけている」が71.0%を占め最も多く、次いで「鍵をかけることが多い」(3.5%)となっている。一方、「短時間のときは鍵をかけることが多い」は2.3%となっている。

経年でみると、平成27年以降「いつも鍵をかけている」は各年7割から7割強で推移しており、回答傾向に大きな変化はみられない。

図7-9-1-② 経年比較／駐車時の鍵かけ状況

イ 自宅・マンションなどの敷地内に駐車するとき



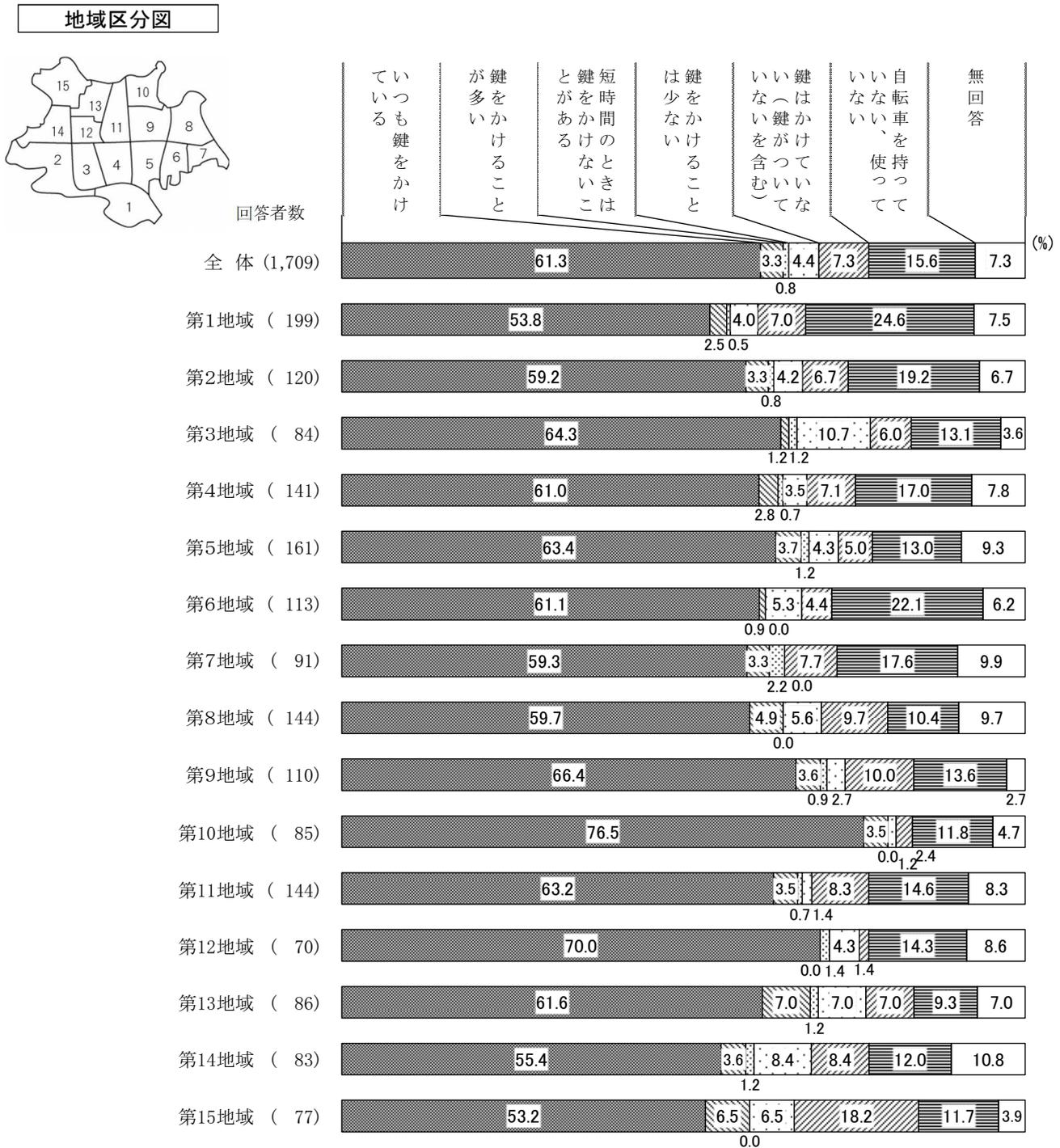
自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐車するときの鍵かけ状況は、「いつも鍵をかけている」が61.3%で最も多く、次いで、「鍵をかけることが多い」は3.3%となっている。一方、「鍵をかけることは少ない」は4.4%、「鍵はかけていない（鍵がついていないを含む）」は7.3%となっており、これまでと同様に外出先に比べると鍵をかけない割合が増える傾向がみられる。

経年でみると、「いつも鍵をかけている」は前回調査（58.5%）に比べて2.8ポイント微増しているものの、外出先での施錠状況と同様、回答傾向に大きな変化はみられない。



自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐車するときの鍵かけ状況を地域別にみると、「いつも鍵をかけている」は第10地域で76.5%と最も高く、次いで、第12地域（70.0%）となっており、第15地域（53.2%）と第1地域（53.8%）が5割台半ば近くと低くなっている。なお、「自転車を持っていない、使っていない」は、外出先で自転車を駐車するとき同様、第1地域（24.6%）と第6地域（22.1%）で2割台半ばと高くなっている。

図7-9-2-② 地域別／駐車時の鍵かけ状況／敷地内





自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐車するときの鍵かけ状況を性別でみると、「いつも鍵をかけている」は女性（63.1%）の方が男性（59.7%）より3.4ポイント高く、「鍵はかけていない（鍵がついていないを含む）」は男性（9.1%）の方が女性（5.9%）より3.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「いつも鍵をかけている」は、女性の30代で74.7%と最も高く、女性の70歳以上で47.3%と最も低くなっている。一方、「鍵はかけていない（鍵がついていないを含む）」は、男性の40代と60代でそれぞれ1割強と他の性・年代層に比べてやや高くなっている。

図7-9-3-② 性別、性・年代別／駐車時の鍵かけ状況／敷地内

